

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

MAGAZINE

定価 600円



クローズアップ Close-up

展開図を折る

~Adventure 山あり谷あり完成形への道~
The Quest for the Model behind
the Crease Patterns

中井 努 Nakai Tsutomu

折り図 Diagrams

にわとり

Rooster

宮島 登 Miyajima Noboru

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge

バイオリン奏者

Violinist

(2003年版)
北條高史 Hojyo Takashi

イベント情報 Event Information

第9回折紙探偵団コンベンション 参加申込み受け付け開始

The 9th Origami Tanteidan
Convention Information

折連載 New Series

やわらかユニット物語：川村みゆき
The Stories of Mellow Units : Kawamura Miyuki

折り紙の周辺：布施知子
Origami and Its Neighbors : Fuse Tomoko

おりがみ我楽多市：山口 真
Origami Odds and Ends : Yamaguchi Makoto

やっぱり折紙散歩：前川 淳
Origami Sampo Indeed : Maekawa Jun

79

通巻 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、先取権の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies on the preferential right, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOL FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold.

裏返す
Turn over.

山折り線
Line indicating
mountain fold.

引き出す
Pull out flap.

手前に折る
Fold forward.

図の見る
位置が変わる
Rotate.

後ろへ折る
Fold backward.

図が
大きくなる
Diagram enlarged.

折り筋を
つける
Fold and unfold.

見えない
ところ
X-ray.

段折り
Pleat.

押す、
押しつぶす
Push here.

切る
Cut.

表紙作品解説

バイオリン奏者 (2003年版)
作: 北條高史 (P.34)
Violinist
Hojyo Takashi (P.34)

■これまで長い期間にわたって作者が取り組んでいるテーマ、楽器奏者を題材とした最新作です。蛇腹折りならではの技法を各所に盛り込み、全周型の立体造形として仕上げてみました。展開図以降の過程を工夫し、オリジナルな仕上げにも挑戦してみましょう。

(解説: 北條高史) Comments : Hojo Takashi

No. 79



Violinist : Hojo Takashi

クローズアップ / Close-up

P.11

展開図を折る

~Adventure 山あり谷あり完成形への道~
The Quest for the Model behind
the Crease Patterns

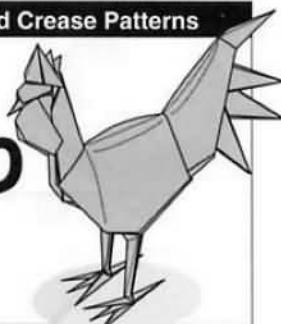
中井 努
Nakai Tsutomu

折り図 / Diagrams and Crease Patterns

P.22

にわとり

Rooster
宮島 登
Miyajima Noboru



P.34 展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

バイオリン奏者

Violinist
北條高史
Hojo Takashi

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments : Hojo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

- P.4 やわらかユニット物語
The Stories of Mellow Units
折らない自由
To Fold or Not to Fold

川村みゆき
Kawamura Miyuki

- P.8 おりがみ我楽多市
Origami Odds and Ends
舟形トートバッグ
Tote Bag in a Shape of a Boat

山口 真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

- P.14 数理を楽しむオリガミクス
Let's Enjoy Math through Origamics
手品みたいな正五角形
Regular pentagon from a single sheet of standard sized rectangle paper for a magic-like demonstration of ORIGAMICS.

芳賀和夫
Haga Kazuo

- P.16 おりがみ庵飛び歩き
Origami-an's Quest for Origami Archives
メディアの珍説
Oddity through Media

岡村昌夫
Okamura Masao

- P.18 やっぱり折紙散歩
Origami Sampo Indeed
折り箱の話
Remarks on Oribako

前川淳
Maekawa Jun

- P.35 ペーパーフォルダーの横顔
Paper Folders on File
小方弘巳 Ogata Hiromi

取材:松浦英子
Matsuura Eiko

コラム / Columns

- P.29 折り紙の周辺
Origami and Its Neighbors
紙 Paper

布施知子
Fuse Tomoko

- P.32 おりすじ Orisuzi ("Fold-Creases")

中村和也
Nakamura Kazuya

- P.33 折り紙三昧
Origami-Zanmai (This Origami and That)
片づけ下手の言い訳
How I Should Be Bad at Tidying

西川誠司
Nishikawa Seiji

情報 / Information

- P.36 つまみおり Rabbit Ear

第9回折紙探偵団コンベンション参加募集開始
The 9th Origami Tanteidan Convention Information
第4回折紙探偵団関西コンベンションレポート
The 4th Origami Tanteidan Kansai Convention Report



川村みゆき
Kawamura Miyuki

今号から連載させていただくことになりました。タイトルの「やわらか」には曲線や曲面を使ったふくらしたユニットという意味と、道具や変形用紙を使った柔軟な作品作りという2つの意味を込めています。かたくならずに、のんびりゆっくり楽しんで下さい。

Hello! In this series I will show you various units with some curved lines and surfaces, and also those with several tools or unusual shaped papers. Enjoy the unit world!



著者紹介 = 1970年生まれ。
埼玉県在住。

Born in 1970. Living in Saitama.

第1話 折らない自由

To fold or not to fold.

紙を折るのが「折紙」だけど...。いつもの私なら絶対きっちり折ってしまう所をあえて折らずに残しました。他のユニットにも応用できるでしょうか?

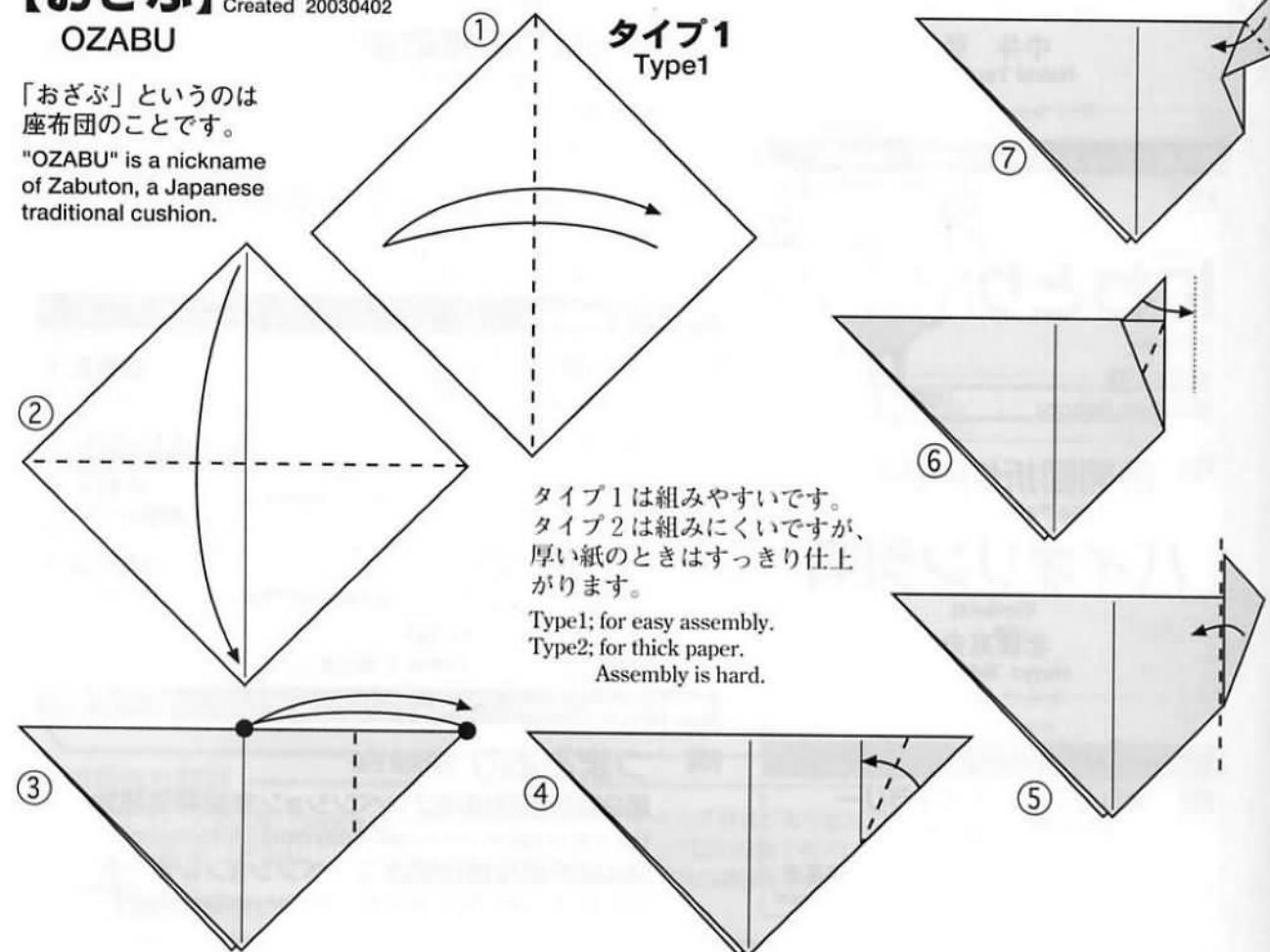
I usually make any creases exactly. But here, I will show you some units with "soft creases".
I hope this technique is useful for making unit works.

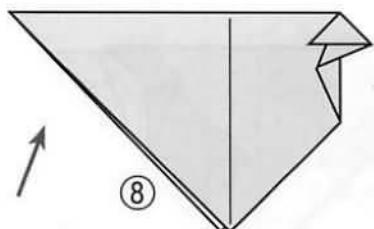
【おざぶ】 ©2003 Miyuki Kawamura Created 20030402

OZABU

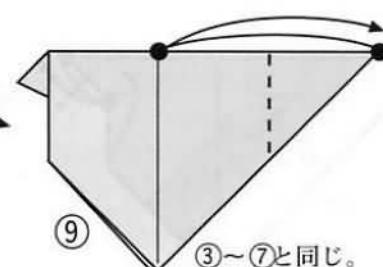
「おざぶ」というのは
座布団のことです。

"OZABU" is a nickname
of Zabuton, a Japanese
traditional cushion.



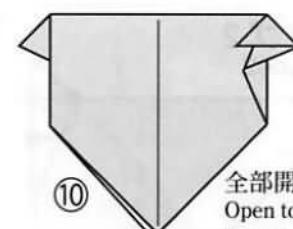


⑧



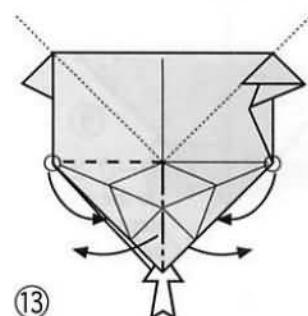
⑨

③～⑦と同じ。
Do the same steps
from ③ to ⑦.

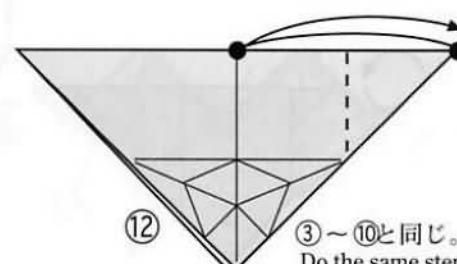


⑩

全部開く。
Open to a
square.

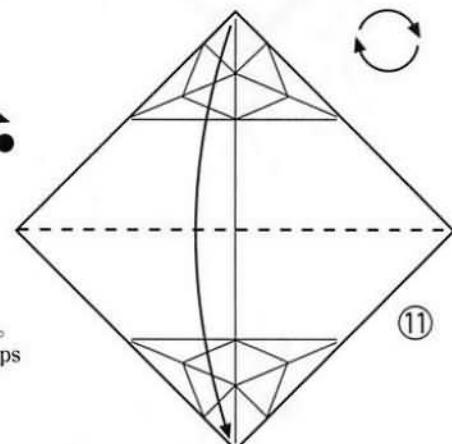


⑬



⑫

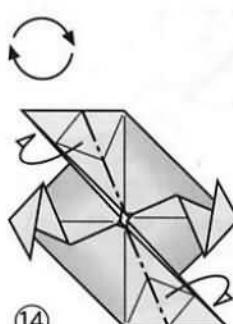
③～⑩と同じ。
Do the same steps
from ③ to ⑩.



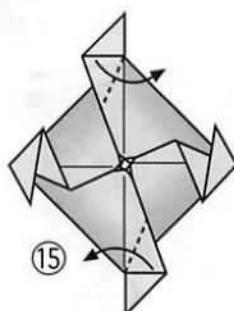
⑪

2つの角を前後につまんで口を広げます。
中に指を入れて形を整えながら○印を中心
で合わせ、厚みのある座布団の形にします。

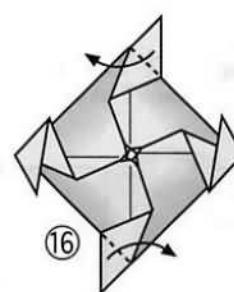
Spread the inside open. Make two rabbit ears
and bring the two points marked ○ together.
The model is no longer flat.



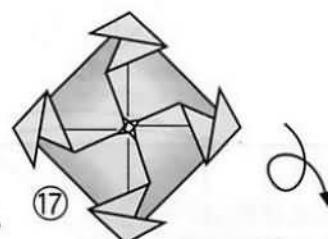
⑭



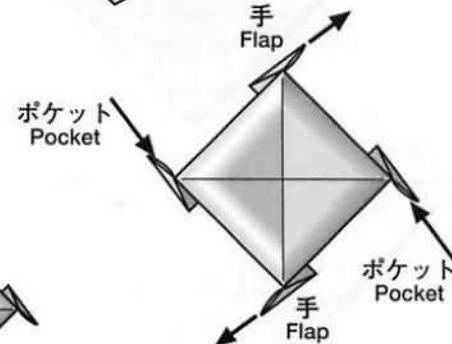
⑮



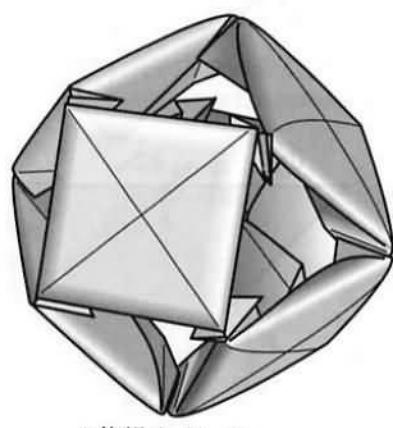
⑯



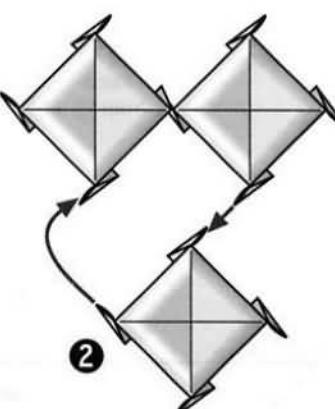
⑰



「おざぶ」タイプ1
The OZABU Type1 unit.

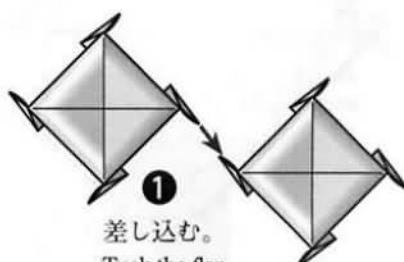


6枚組み / 6 units



②

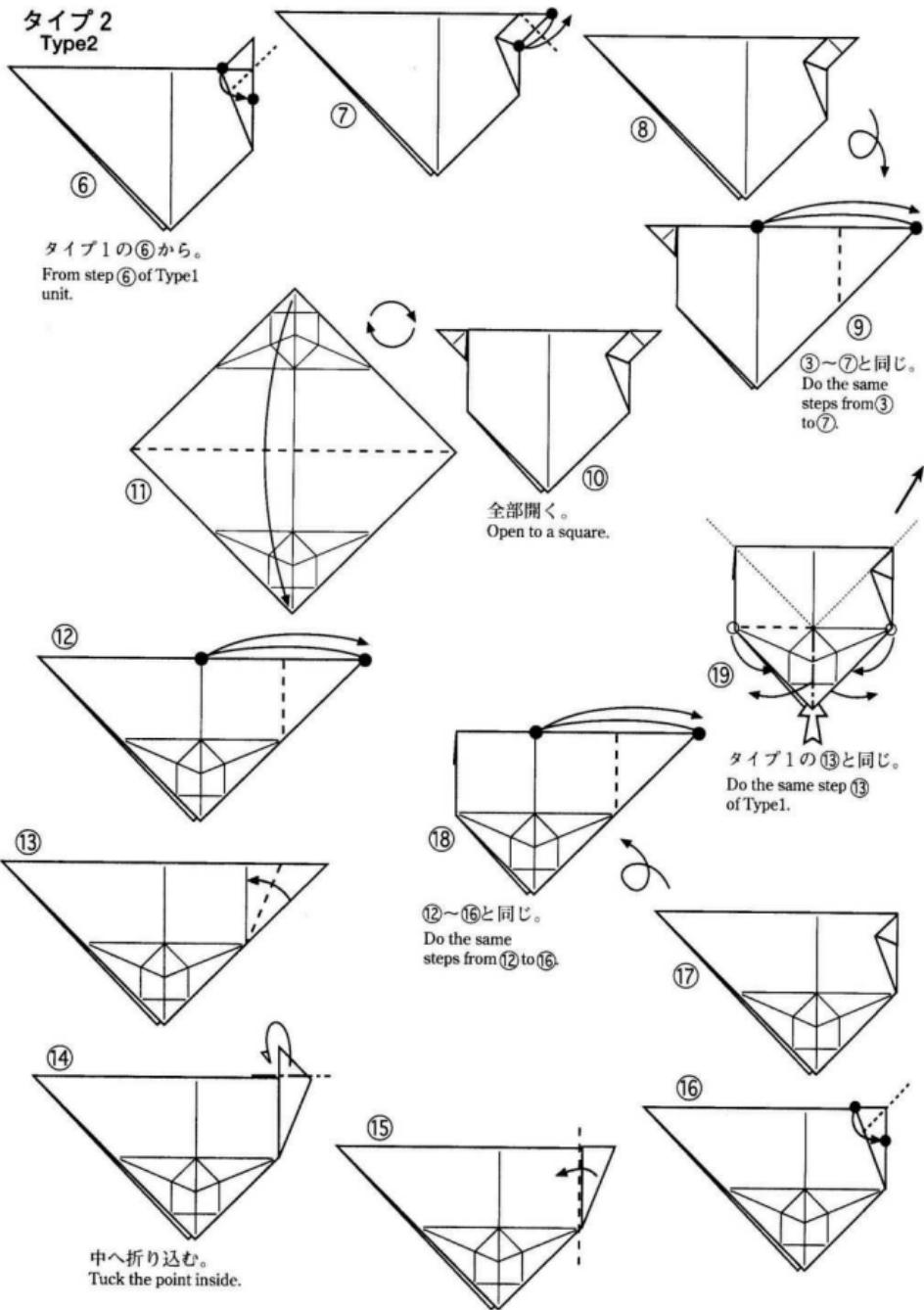
3角形の穴を作りながら
組んでいく。
Tuck the flaps into
the pockets and make
a triangle shaped hole.

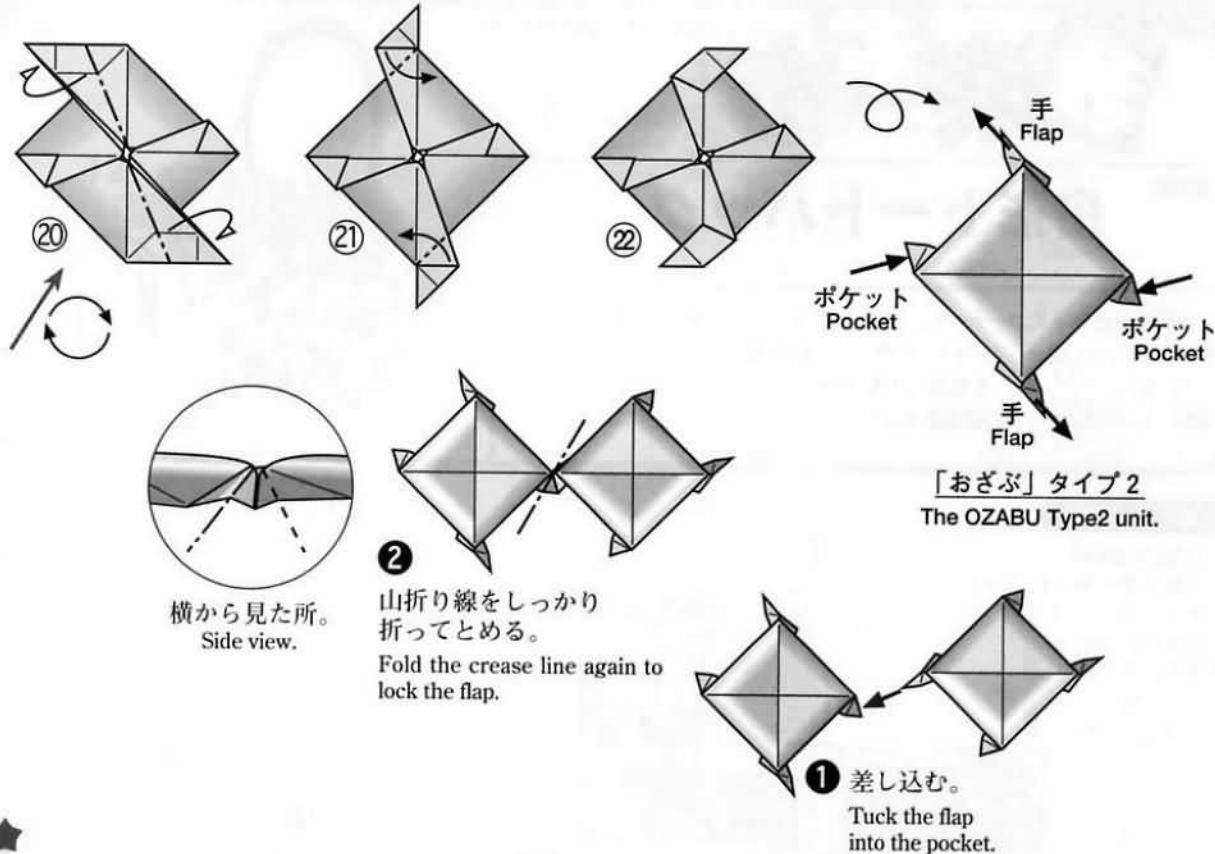


①

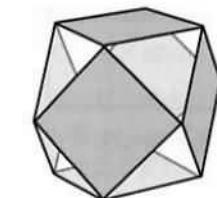
差し込む。
Tuck the flap
into the pocket.

タイプ2
Type2

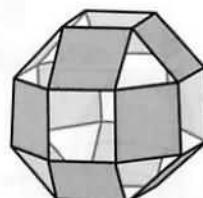




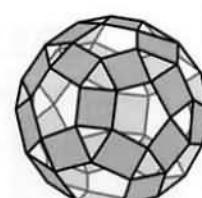
★ タイプ1、2ともに6枚、12枚、30枚組等が可能です。
You can make three kinds of model by using Type1 or Type2 units.



6 ユニット /6 units
立方 8 面体
Cuboctahedron

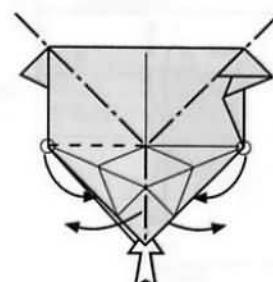


12 ユニット /12 units
斜方立方 8 面体
Rombicuboctahedron

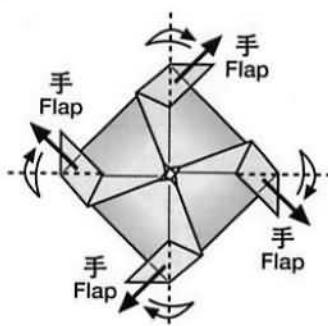


30 ユニット /30 units
斜方 20・12 面体
Rhombicosidodecahedron

★ 平らに潰したユニット
も可能です。
You can make flat unit too.

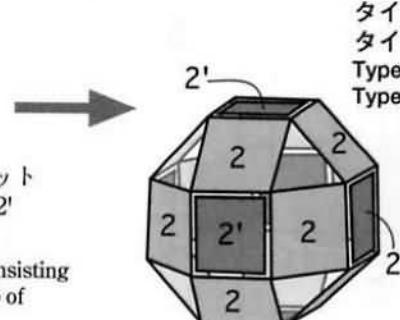


★ 「おざぶ」タイプ2'/ タイプ2のアレンジです。組み立ては難しいです。
OZABU Type2'/An arrangement of Type2 unit. Assembly is so hard.



タイプ2の結合部にはポケット
があります。ここにタイプ2'
の手を差し込みます。

There is a pocket on the joint consisting
of two Type2 units. Tuck the flap of
Type2' unit into this pocket.



タイプ2 を12枚
タイプ2' を 6枚
Type2 ;12 units
Type2' ; 6 units

おりがみ 我楽多市

がらくたいち

Origami Odds and Ends

山口 真
Yamaguchi Makoto

第1回

舟形トートバッグ

Tote Bag in a Shape of a Boat

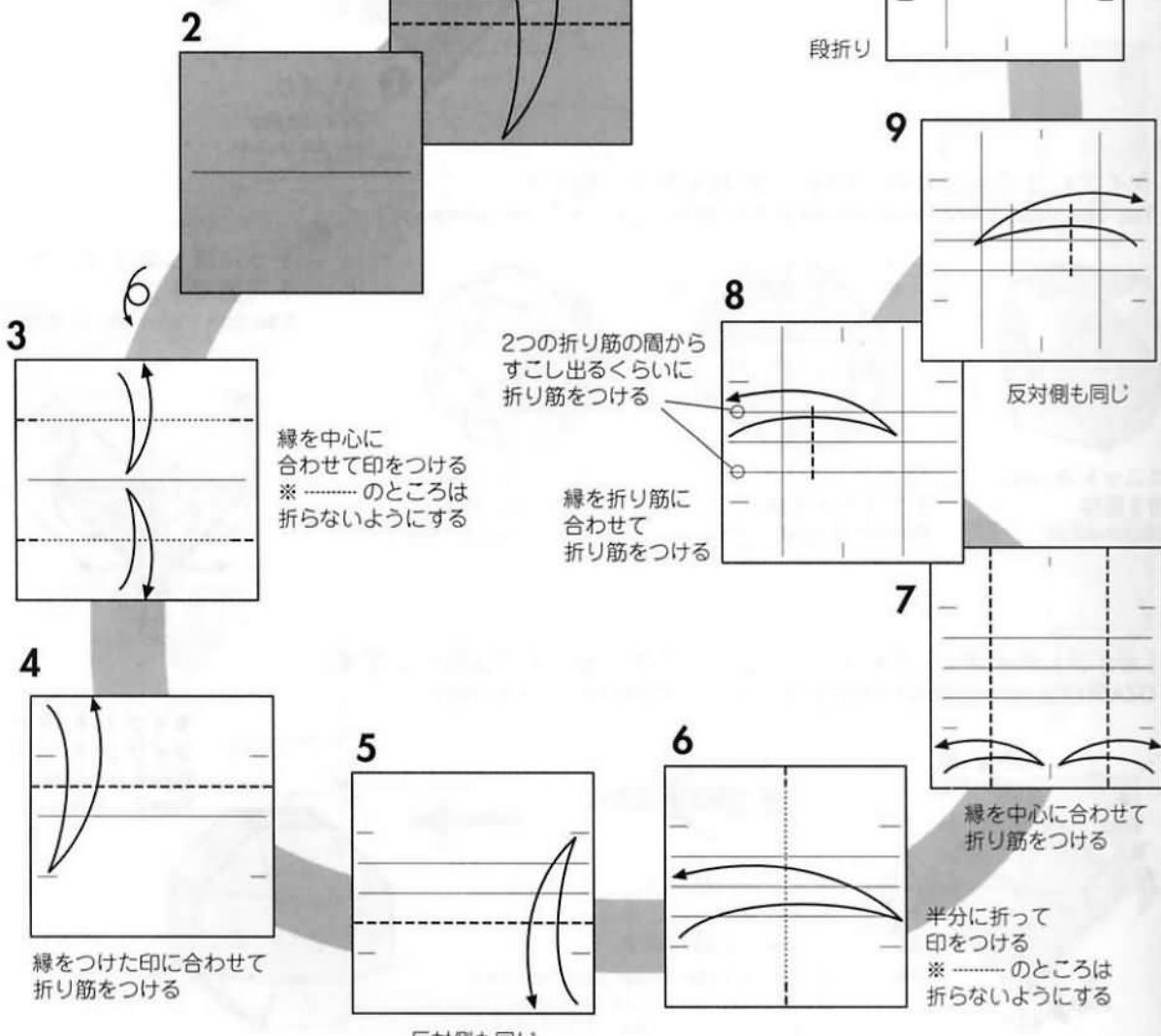
実用折り紙作品のコーナーということではじまりました。飾れる・使える楽しい折り紙をどんどん紹介していきたいと思っています。第1回は、女性がよく持ち歩いている「トートバッグ」。女性用の大型手提げバッグのことらしいですが、今回は手に入りやすいサイズの紙を使用して、「ミニ」トートバッグになりました。

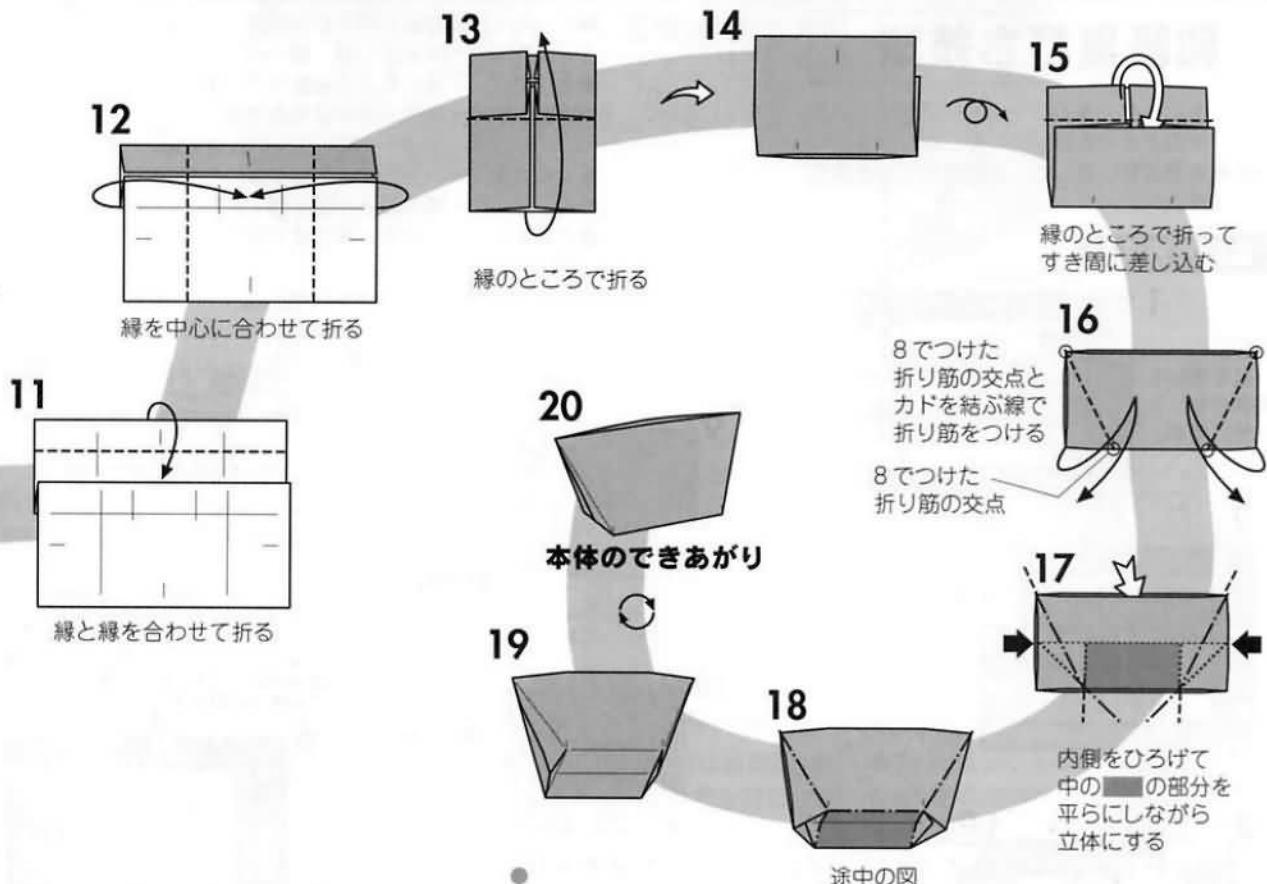


本体（基本）

小) 30 X 30cm
仕上がり高さ約7cm

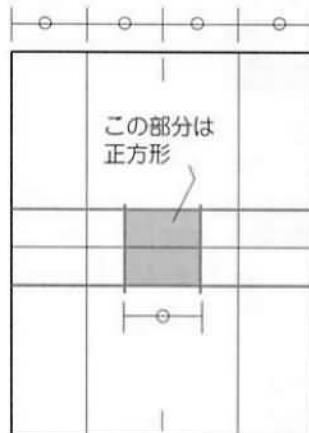
基本は「小」の折り方で、アレンジバージョンが「大」になります。



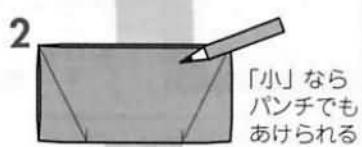
**長方形バージョンの折り方**

大) 48×62cm 仕上がり高さ約15cm

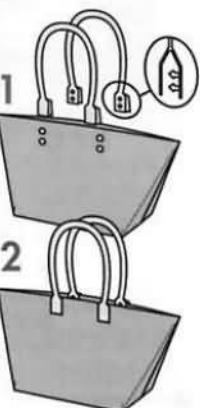
長方形の場合は、4~5の折り筋（グレーの太線で表記）の位置が変わり、3の印は必要なくなります。図のように、○の幅が同じになるように折り筋をつけましょう。



この折り筋をつけたら、
10以降から同じように折る

仕上げ**工夫**

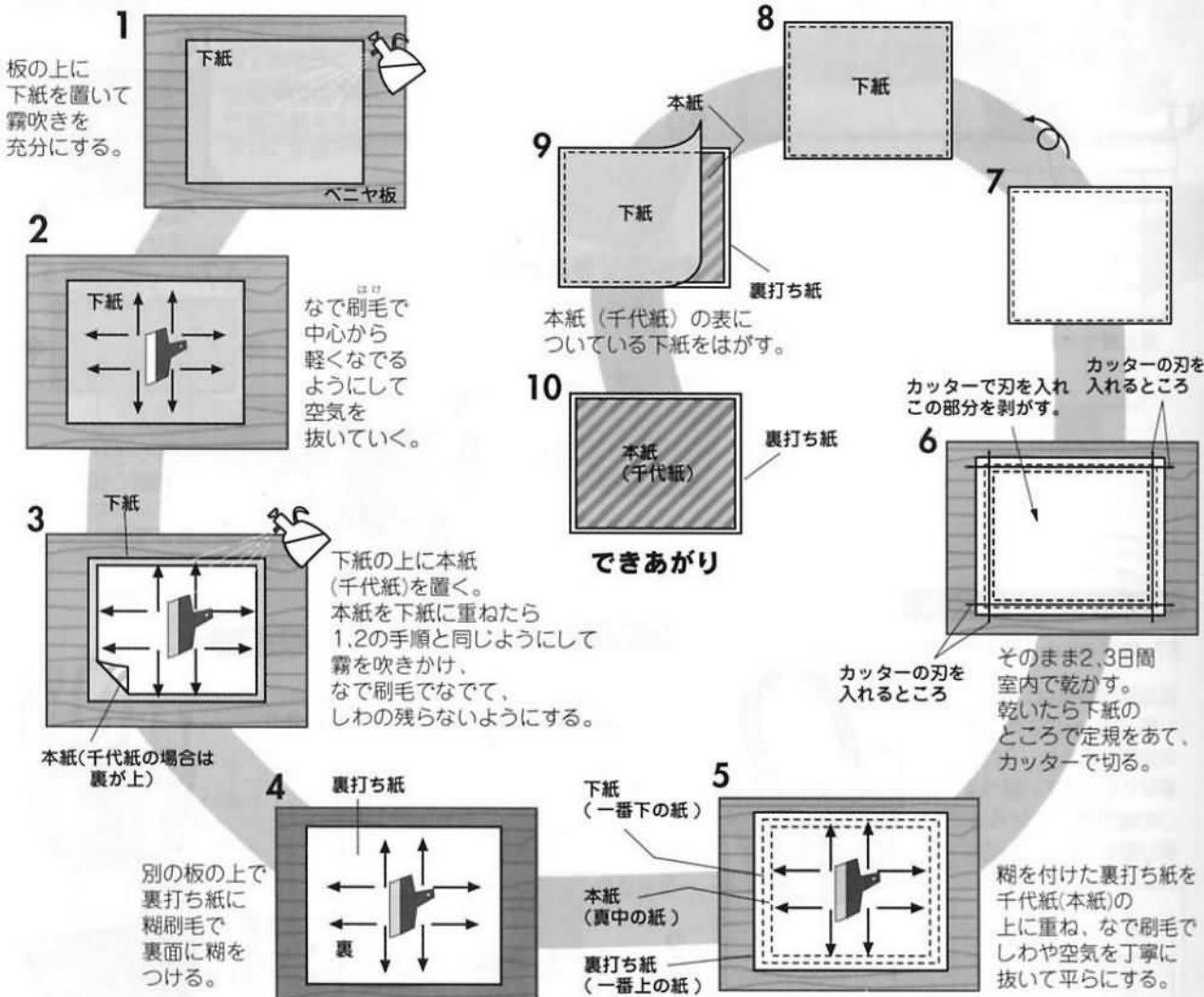
不要になった紙袋の取っ手を再利用して使ってもいい



和紙裏打ち技法

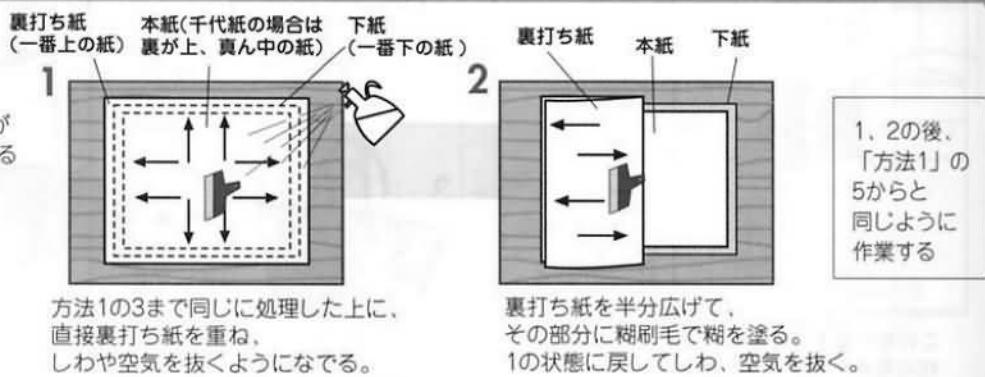
「トートバッグ・大」は千代紙を使用していますが、そのままだと折りにくく、コシがないので和紙を裏打ちしました。実用性もグンと高くなります。

裏打ち方法1



裏打ち方法2

「裏打ち方法1」はベニヤ2枚が必要でしたがベニヤ板1枚の上でできる方法も紹介します。





展開図を折る

~Adventure 山あり谷あり完成形への道~

The Quest for the Model behind
the Crease Patterns

中井 努

Nakai Tsutomu

はじめに

今や数多くの折り紙作品が展開図を用いて発表されています。一般的には折り図が使用されていますが、特に、難易度の高い折り紙作品では折り図にしたときの工程数も数百に及び、折り工程の洗練や、図の作成など、折り図を作る作業には多大な時間と労力を要求されることは容易に想像できるでしょう。展開図は、こういったいわゆるコンプレックス系の作品発表を助ける手段として、また、端的に作品の構造を示す手段として有効であるため、多くの作家が好んで使っています。折り紙作品を創作する者が新しいアイデアをどんどん作品として発表していくためにも展開図の役割は大きく、今後、皆さんが展開図によって発表される作品に出会う機会も少なくないでしょう。

一方、こういった作品の鑑賞者の立場に視点を置くと、(そこに展開図があれば、)実際に展開図を折って完成形にしてみたいという欲求にかられます。「名作を手元に置きたい。」とか、「自宅に飾りたい。」といった感覚ももちろんあるにはあるのですが、私の場合はやはり「この展開図が一体どういう風に折ったら完成形の構造になるの?」という謎を明らかにしたいと常に考えてしまいます。また、作家の造形手法を体験し習得したいとも思っています。まあ、何はともあれ展開図から完成形を得たいのですが、なかなかそう簡単ではありません。折り図ならばなんとか完成形まで折り上げができるという人は多いでしょう。しかし、展開図と完成形とを見ながら

実際に作品を折り上げるのは、それなりに経験やカン、及び技術を要求されると必ず完成形に辿り着けるという保証もなかつたりします。しかし、諦めてしまうことはありません。(私の周りに展開図で作品を折り上げるスキルを持った人を何人も知っています。)情熱と根気があればなんとかなります。

基本形って?

展開図折りは、一般的に「展開図」から「基本形」をたたみ、造形を行なって「完成形」を得るという流れがあります。通常、基本形という名称は「鶴の基本形」などのように用いられますが、展開図をまとめた形を言う時にも慣習的に用いられています。これは、展開図をまとめた形からさらに造形というステップを経て完成形へ至るという流れを意識したものと考えられるのですが、実際に、展開図をまとめて即完成形に至る作品もないわけではありません。

展開図を読む

それでは実際に作品をひとつ取り上げて、展開図をどのように折っていくのか、どのように読み取っていけば良いのかを見てみましょう。作品は、第1回「展開図折りに挑戦!」に取り上げられた神谷哲史氏の「エンシェントドラゴン」(図1)です。さあ、展開図を眺めてみましょう。展開図を眺めてみてどう折っていくか既に自分なりの手順が浮かぶ人はこの文章を読む必要はありません。(逆に読み取りのテクニックをどうやったら人に教えてあげられるか考えてみるのもお

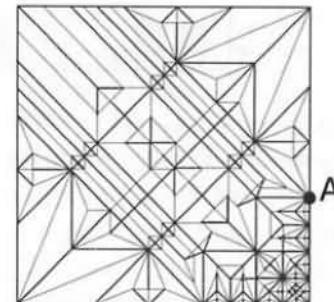


図1 エンシェントドラゴンの展開図

もしろいかも。)一目見て「うわ、なんだこれ?!」と思った人は以下を読んでみましょう。まず、この展開図は表でしょうか? それとも、裏ですか? WEBで公開されている展開図は慣例的に山谷が表記されていない場合が多く、私も普段裏表をあまり気にしないのですが、山谷表記のある展開図折りを前提とした展開図では裏から見た図である場合が多いようです(図2の視点A)。これは、創作者が展開図を作成するときに実際に作品を開いて見るからかもしれません。(なかなか本題に入らないな~。)で、このまま展開図をまとめるのは難しいと感じる場合は、展開図の中に自分が折り上げられそうな部分を探しましょう。鶴や蛇腹が見えてくるはず。残った部分がまとまりそうに無い部分で、残らなければそのまま折れるということです。つまり難しい展開図は分割してしまえば良いのです。

例えば、できるだけ長い山線を利用して分割してみると良いでしょう。頭の中

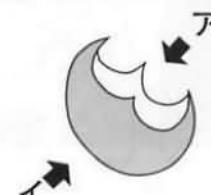


図2 作品の構造と視点

展開図を折る

~Adventure 山あり谷あり完成形への道~

The Quest for the Model behind
the Crease Patterns

中井 効 Nakai Tsutomu

でできる人はそれでも構いませんが、コピーをとるなどして実際に鉄で切ってみましょう。どれくらい細かく分割するかは人それぞれです。図3のように、2つでも3つでも構いません。分割したものは原図よりパターンの密度が粗になっているので、相対的に易しいものになります。どんどん分割してしまえば、どんどん易しいパターンになります。

細かく切って分割すれば、分割された部分についてだんだん折りあげられると思えてきます。分割したものが全て折りあげられると理解できれば、それを上手く接続していくことで基本形まで畳めることになります。

言わば、複数種の継ぎ手なしユニットに落とし込めるのです。慣れてくれれば、だんだんユニットのサイズを大きくしていき、鉄を使わないで展開図をまとめることができます。まず展開図を読むときに重要なのは、この「畳めるという感覚」をつかむことです。これに尽きます。

「畳めるという感覚」をつかむことともう一つ展開図を実際に折る際に理解しておきたいことがあります。

それは、基本形になるときの構造です。つまり、展開図のどの部分からドラゴンの頭部、羽、爪、尾部が折り出されるかということに加え、紙のまとまり方をイメージするということです。大方の作品

は図2のように、紙の裏を内側に包んだ状態で、適当なところから角ができるような構造になっています。エンシェントドラゴンは典型的な例で、しかも最終的には紙の縁が一致する構造になっています。これは、伝承の折り鶴にも通じる構造でしょう。また、四肢の折り出しは、伝承の角香箱の底を蛇腹にして四つ角を細くすることで実現している構造のようにも取れます。エンシェントドラゴンは伝承作品の美しさをも内蔵しているということですね。なんて美しい展開図なんだ！ あっと、焦点がずれてきたかな。展開図の鑑賞ではなく、まとめることに焦点をもどしましょう。

展開図をまとめる

今度は一枚の紙で折ってみましょう。一般的には「全ての折り線を山谷は気にしないで付け、中央から一気に畳むのがこつ」と言われています。といつても分かりにくいかも知れませんのでゆっくり見ていきましょう。まず、折り線を付けるのですが、図3bの分割は折り線をつけるのに有効な分割でしょう。(ここでは実際に切るわけではありません。)周辺の折り出し基準点Aで分割されているからです。点Aを出したあと、流れるように紙を図3bのように分割できます。分割領域の境界線を付けたら、内部の折り線をというふうに進

みます。兎に角、すべての折り線をつけましょう。(上手くできそうにないひとは最初、展開図をコピーして、それを折ってみるのも良いでしょう。) 折り線をつけたら次に、一気に畳むのですが、今度は図3cのように見てください。上から尾、羽、頭の3つの部分に分かれています。各部分は畳めるという感覚が掴み易いのですが、この作品はそれぞれの接続部分が難しいと思います。図4に尾と羽の接続部分のまとめ方を示しておきます。頭と羽の接続部も同様にたためると思います。まず、中央の鶴から折るのですが、羽の付け根部分を図4の線で折ると一時的に紙が取まってその先の工程が折り易いです。

展開図には多少線が足りなかつたり山谷が変ったりする場合もあります。あまり気にしないようにしましょう。(実際には翼の落ち着かせる向きや重なり具合などに影響されます。もちろん、ミスの場合もあるのですが、。)

さあ、エンシェントドラゴンの基本形ではなんとかまとめたでしょうか？ ここまでくれば、それぞれ好きなポーズに仕上げて完成です。造形はまず、完成図や写真、実物などを見てまねることをオススメします。また、自分なりにアレンジをどんどん加えてみるのも新しい発見があって楽しいものです。展開図折りのさらに楽しいところかも知れません。

龍神 2.1

有名な現存の展開図でもっとも難易度の高い作品のひとつである神谷哲史氏の龍神の展開図もみてみましょう。

龍神は、図5のように、頭部、表皮(鱗)部、四肢を含む胴体、及び、胴体と表皮

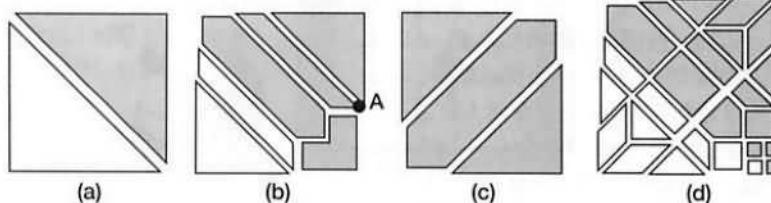


図3 どう分割するか？

○中井努(なかい・つとむ)=1970年神戸市生まれ。祖母の折鶴が折り紙を始めたきっかけ。不切一枚折りのコンプレックス系を好む。いつかは満足のいく作品を創作したいと思っている。折り紙以外の趣味は歌。A Cappella Group "Kolkhoz"(1990年結成)のBass兼リーダー。



の接続部分とに大きく分けることができます。(折り紙分子というよりは折り紙組織で構成されているって言うのかな。もちろん、JOASとかOUSATかではないです。)まあ、これくらいに分割すればなんとかなるでしょう。実際に私がやったのは3分割。(1)80等分蛇腹の胴体と、胴体と表皮の接続部分を1枚の紙でテストし、(2)表皮の平織りパターンを別の紙でためし、(3)頭部と、何と言っても厄介そうな頭部と表皮の接続部をまた別の紙で試してから、はじめて、一枚折りに移りました。一枚折りの手順としては、胴体部分の蛇

腹からで、展開図のまず左右方向にたたむと良いと思います。そして、胴体と表皮の接続部分は●印で示した山の頂点のところから折り進めると素直にいくようです。小さい正方形が四つ並んでいるところが指の股になります。

展開図の左側に手足の指が並び、大きな正方形を挟んで次の手足の指となっていますが、大きい正方形は最終的に手足(外側に出る部分)になります。したがって、さらに内側の大きな正方形は手足の長さを確保する領域です。展開図を正直にたたむと左右の手足と一緒に継

折りすることになるので、引き出して90度回転させ背中側から両側へ下ろします。基本形を畳んだ後、頭部は向きを変えるために、ブリル氏のサイと同様の手法で捻ります。どうですか? 折ってみたくなりましたか? 何体もいろんな龍神が並んでいる光景、、、楽しみですね。

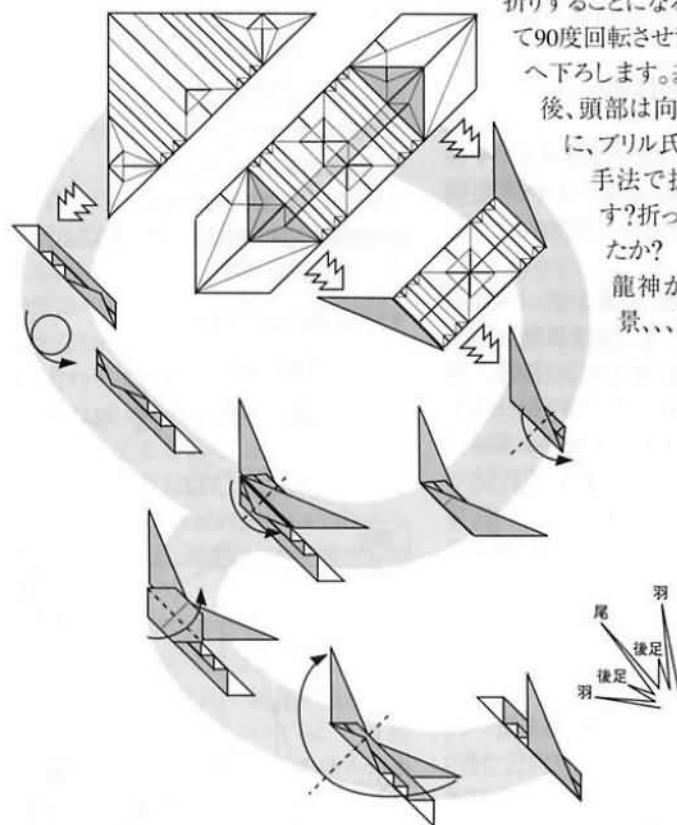


図4 展開図のまとめ方を説明する折り図

最後に

展開図を読むことで作品の構造が理解でき、大体どんな感じで作品にまとまるのかがわかるようになると楽しいですね。もしかしたら、展開図を読むだけで満足してしまうかも知れません。でも、できれば手を動かして自分の作品にしてみることもやってみましょう。実際、展開図だけではわからないこと、折ってみないとわからないこともありますから。

神谷哲史氏が以前、「生きている間は全て試作品です。」と話していました。あれほどの完成度のものが試作品とは!と思うのですが、展開図から作品を折り上げる際にも、1枚の紙を最初に折って作品が完成すると思わないようにしましょう。何枚も何枚も折ってみて初めてまとまる。この過程もまた楽しいものです。展開図折りについて書いてきましたが、すこしでもやってみようと思ったら幸いです。

「エンシェントドラゴン」の展開図は本誌55号に掲載。「龍神2.1」の展開図は1部1,500円(送料込)で販売中。詳しく述べ日本折紙学会事務局まで。(編集部)

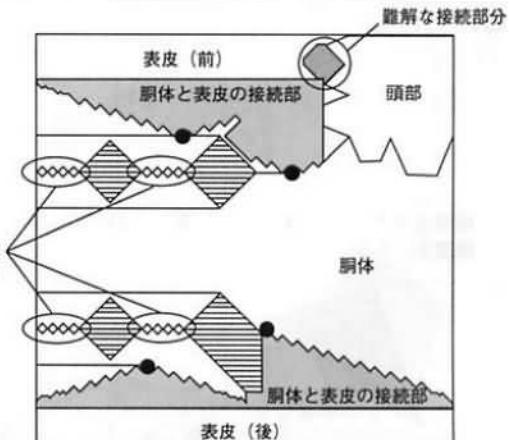


図5 龍神の展開図(概略)

数理を 楽しむ オリガミクス

芳賀和夫

Let's Enjoy Math through Origamics
Haga Kazuo

○芳賀和夫(はが・かずお)♂=1934年
各都道府県1~2校ずつ文部科学省が
指定するSSH(スーパー・サイエンスハイスクール)高校
のうちの2校が、オリガミクスを取りあげ
てくれことになったので、今度は高校生のお相手もすることになる。問題の発見、解決、そして科学的思考力の増強が
ねらい。



第13回 手品みたいな正五角形

Regular pentagon from a single sheet of standard sized rectangle paper for a magic-like demonstration of ORIGAMICS.

この連載では、素材としての正方形の紙をひらがなで「おりがみ」、それ以外の意味合いでは「折り紙」と書くことにします。

1年間だけのつもりが2年間になり、しばしば締め切りをオーバーして編集者に迷惑を掛けるので、最終回を終えてから小さく身をひそめていたら、編集委員会から3年目も連載続行という要請が来て、ずうずうしくまた書くことを引き受けてしまいました。今後もよろしくおつき合いください。

お 前がやっているオリガミクスとい
うのはどういうものなのか、手っ取
り早く分かるような例を見せてくれない
か?と訊かれたときに、手元に正方形の
おりがみがあれば芳賀第1定理とそれ
による紙の3等分や5等分、さらに正五
角形づくりなどをみてみせますが、おり
がみがない場合でも、A4、B5などの用
紙を折って、その3等分やそれに基づく
正五角形づくりをして見せたりします。

たいていの場合、「実演」が終わると
相手は不思議そうに、そのわけを考え
込んでしまう傾向があり、特に、長方形
からの正五角形の数理は難解で、どち

らかという意地悪問題になりますの
で、これは手品みたいなものです、と逃
げを打って相手の心理的負担の軽減
(?)を図っています。

3等分点を作る

規格長方形の3等分は既発表ですか
らご存じの方も多いと思いますが、証明
を印刷した覚えがなかったのでここで紹
介します。

まず、コピー用紙、便箋、レポート用紙など $1:\sqrt{2}$ の規格長方形用紙を横置きに置き
ます(図1a)。最初に用紙を二つ折りして縦

の中線を作ります(図1b)、右下の頂点を中線の上端に合
わせて折ります(定理折りとい
う、図1c)、折ることによって移
動した中線下端の位置を下
の紙にします(図1d、図2
のH点)。このしるしの点がちょうど用紙を縦、横ともに3等分
する点になります。

実際に、このH点を使って、
縦にも横にもぴったり三つ折り
できることを体験してもらうことが
がオリガミクス入門になります。
不思議が科学の第一歩

ですから、わざわざ折り線を省いて、必要
な部分だけに小さな折り目マークをつけ
るだけでH点の位置を決めるなど、マジック
まがいにやって見せたりもします。

3等分点の証明

この証明のため、折り図の必要箇所に
記号をつけて、補助線は1本だけHから
底辺におろした垂線を入れ、その足をI
します(図2)。

用紙の短い辺を1、長い辺を $\sqrt{2}$ としてま
ず $a = CF$ の長さを求める。

$\triangle CDF \cong \triangle FB$ なので、

$$\left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)^2 + a^2 = (1-a)^2$$

この式から $a = \frac{1}{4}$

一方、 $\angle FDG$ が直角なので、

$\triangle CDF \cong \triangle EDG$

$b = EG$ を辺の相似比から求めると、

$$b = \frac{\sqrt{2}}{4}$$

また、 $\triangle IHG \cong \triangle EDG$ であり、

かつ $DG = BG = \frac{3\sqrt{2}}{4}$

$$HG = EG = b = \frac{\sqrt{2}}{4} \text{ なので}$$

$$c = GI = \frac{\sqrt{2}}{12}$$

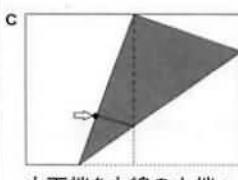
図1



規格長方形($1:\sqrt{2}$)を
横置きにする



縦の中線をつける

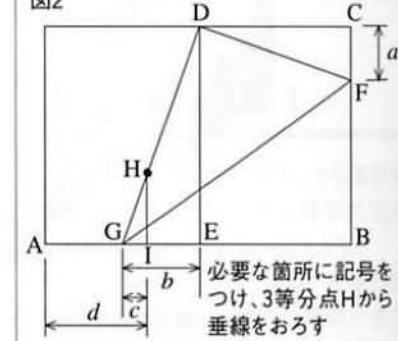


右下端を中線の上端へ



中線下端が移動した位置
(矢印)をマークすると、こ
れが縦も横も3等分の点

図2



d(EI)はしたがって、

$$d = \frac{\sqrt{2}}{2} - b + c = \frac{\sqrt{2}}{3}$$

(つまり、長い辺の3分の1)

同様に相似比で計算すると

$$HI = \frac{1}{3} \quad (\text{短い辺の3分の1})$$

だいぶ省略しましたが、これでH点が用紙を縦にも横にも3等分する点の一つであることが証明されました。実際に紙を折って確かめてください。

この証明は1例です。もっとエレガントな証明も考えてみてください。

手品みたいに正五角形

このH点を使うと、まるで手品みたいに正五角形を作ることができます。

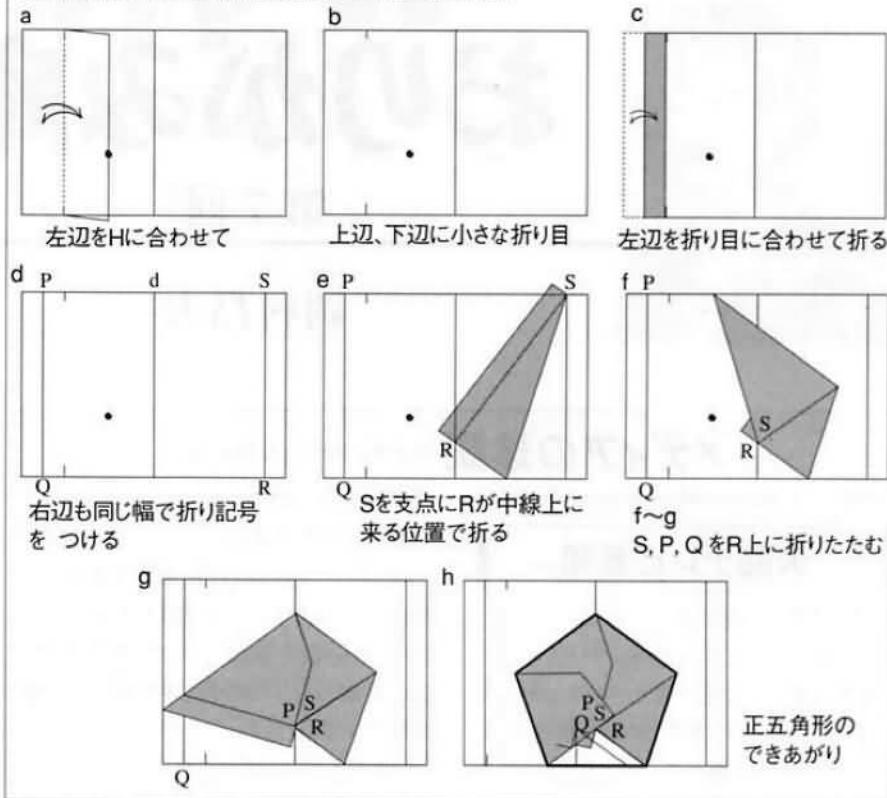
用紙には中線とH点がついています(図3a)。紙の左辺を上下にはみ出さないようにH点に合わせ、全部を折らずに上下の端だけちょっとつぶして小さな折り目マークをつけます(図3b)。今度はその上下のマークに左辺を合わせて紙を折ります(図3c)。中線で紙を二つ折りして右辺も左辺と同じ幅に合わせて折り、両方とも広げておきます(図3d)。これで準備完了です。以下の説明のため左右の折り線の端にP~Sの記号をつけておきます。

では、一気に正五角形にしましょう。最初が肝心です。慎重にRが中線上に来るようSを支点に紙を折ります(図3e)。折ったままSを中線上のRに合わせて重ね折りします(図3f)。このRにSが乗った上にさらにPを合わせて紙を折ります(図3g)。そして最後にQをその上に乗せて紙を折ると、じゃん! 正五角形だ!(図3h)。

中線上に最初にR(またはQ)の位置決めをすればあとはPQRSの4つの点を重ねるだけです。順序はどれが先でも後でも構いません。

出来上がったものが正五角形であるかどうかを確かめるには、別の紙に五角形を乗せて、筆記具で輪郭を描きます(図4)。そして、頂点を1つずらして輪郭からはみ出しているかどうかを確かめます。こうして順繰りに回転させながら一回りさせ、はみ出しがないことを確かめます。これで、疑わしそうだった相手の目

図3(図1dの中線と点Hをもとに正五角形を作ろう)



つきも驚きのまなざしに変わることはありません。

4点集中折り五角形の数理

正五角形は、中心角が 72° 、頂角が 108° です。この両者は $90^\circ \pm 18^\circ$ なので、私はかって、正五点星を作るときには 18° を作ることを考え、

$$\sin 18^\circ = \frac{\sqrt{5}-1}{4}$$

が折りやすいことに気づきました。折りやすいといつても手品には手間が掛かりすぎるので、今回は、 18° に限らず 36° 、 72° など簡単に折れる、誤差の小さい近似値を探した結果、 36° の良い近似折りが見つかり、それで上記の「正」五角形づくりをしたというわけです。

図5の直角三角形 $\triangle LMN$ の斜辺MN

は1、垂線に当たる辺LNは

$$\frac{\sqrt{2}}{2} - \frac{\sqrt{2}}{12} = \frac{5\sqrt{2}}{12}$$

小数にすると 0.5892…

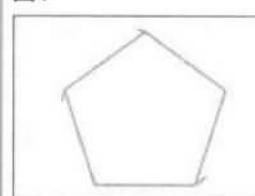
$$\angle LMN = \sin \frac{LN}{MN}, \text{ 逆に}$$

$$\sin^{-1} 0.5892… = 36.1042^\circ$$

これは 36° (18° の倍角、 72° の半角) のわずか+0.1°で100.2894%、0.3%足らずの誤差でした。この角度をもとに、1つの位置に4つの点PQRSを集中させるだけで「正」五角形ができるところが手品的なでした。

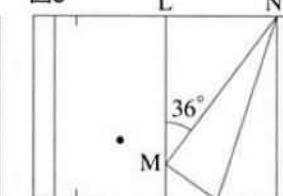
おまけがあります。こうして折った正五角形の左右に張り出した頂点の位置に注目してください! 紙の横の中線上にあるように見えませんか?(図6) 惑わされますが、これも実は超近似です。計算してみてください。

図4



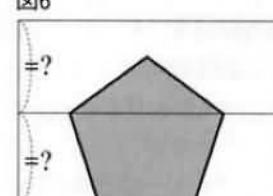
別用紙にできた五角形の輪郭を描いて、五角形の頂点を1つずつずらして精度をチェック

図5



最初の折り方で直角三角形 $\triangle LMN$ ができ、 $\angle LMN$ が 36° になっている($\sin \frac{LN}{MN}$)

図6



正五角形の水平な対角線が用紙の横の中線上に一致!

おりがみ庵

Origami-An's Quest for Origami Archives

第7回

Okamura Masao

岡村昌夫

跳
び
歩
き

メディアの珍説 Oddity through Media

欠陥テレビ番組

去る2月7日夜に某テレビ局が放映した「芸術に恋して!」というシリーズものの「教養番組」には誠に驚かされた。あのような「欠陥商品」を制作する下請け会社の無責任さには慣れているが、今回のは特にひどいものであった。見せるための誇張などに目くじらを立てるつもりはないが、あまりにも非常識な部分については見逃せないと思って、録画ビデオを借りたいと東京友の会の人達に連絡したところ、誰も持っておらず、また見た人も極めてわずかだったこともわかった。そのうちに木村さんやおおのさん[#]の尽力によって、高岡市の高木康充さん[#]から録画ビデオが送られてきたので、詳細にわたって放映内容を確認することが出来たが、ただただ制作側の無知に唖然とする解説であった。

「日本の贈り物～折り・包むアート～」という題で、折り紙関係はちょっと触れた程度だったが、それでも荒木真喜雄さんを引っ張り出して、ラッピングのルーツとして「熨斗包み」の説明もされていたのに、解説の大部分は若い女性タレント?が読んでいた。誰かが書いた原稿を、おそらく無知のままにカットして支離滅裂な内容になっていたり、ナレーターが読みちがえたりしても気が付かないディレクターが悪いのであるが、5人もいるコーディネイターも含めて一体どれだけの人の目をすり抜けて放映に至ったのか不思議なぐらいである。

例えばこんな具合の解説が読み上げ

られていたのである。

「扇子は平安時代に日本で生まれたと言われています。もともとはヒオーギと呼ばれ、薄い板を重ねてつづったもので、紙が無かったこの時代、メモ帳として使われていました。」

聞き違えではなかった。何度聞いても、平安時代に紙が無かったと思っているらしい。こんな解説を書く「専門家」がいるはずはないので、紙製の扇子と板製の桧扇と、さらには笏や木簡などの解説を取り混ぜて、適当に縮めてしまったとしか思えない。

珍説折鶴誕生記

折り紙についてはこんな具合であった。

「折り紙と言えばほとんどの人がイメージする、この折鶴。ではなぜ鶴なのでしょうか。ここまででは、まっとうだった。」

「その謎を解く一冊の書物があります。」画面はここで日本折紙協会発行の複製本『秘傳千羽鶴折形』の表紙の大写しになる。

「『秘傳・千羽鶴の折り方』」(岡村注、わざわざ「の」を挟み、「折り方」と言った。この番組の中で、荒木真喜雄さんは、きちんと説明した上で「折形」を平板式アクセントで発音されたが、ナレーターは「折り方」と同じ下降式アクセントで押し通したので、コーディネイターのコメントを含めて、混乱の一因になっていたのだ。)

続いて「鶴の包丁」のページが現われる。(図版)

驚異的なのはここからであった。

「そこにはなんと、鶴が調理されようとする絵が載っています。昔の日本には正月に無病息災を祈って縁起のいい鶴を食べるという習慣があったのです。」

しかし、鶴の数が少なくなり、いつしか紙で鶴を折るという習慣へと形を変えてゆきました。」

どなたの説か、聞いたこともないが、これは単なるスタッフの無知によるものとも思えない。



▲「秘傳千羽鶴折形」より「鶴の包丁」

鶴の包丁式

鶴の乱獲による減少で、食用鶴が手に入りにくくなったというようなニュアンスであるが、そもそもあの絵を「昔の日本には…縁起のいい鶴を食べるという習慣があったのです」という事実の証拠とすることはできない。「秘傳千羽鶴折形」の挿絵は、鶴の折形をいろいろ「料理」してお目にかけますという編者の挨拶であろうが、江戸時代、実際に京都御所の清涼殿前庭でおこなわれた格式高い料理ショウに見立てたものである。雉子

○岡村昌夫(おかむら・まさお)=
1934年東京生まれ。都立高校の
国語教師を9年前に定年退職。
折り紙以外の主な趣味は能・歌
舞伎を観ること。



や鶴の包丁式は広く行われたものだが、鶴の包丁式は、毎年正月17日に高橋・大隅両家と大草流の包丁人が隔年に交代して受け持ち、まな板の上で、まなばしと包丁を使って見事に鶴を捌いて見せ、あと宴会になって皆々相伴にあずかるのである。豊臣秀吉が鶴を献上したのが始まりという伝承もあり、江戸時代になってからの行事だったらしい。古くは、くぐい(白鳥)や鶴などの白い大型の鳥は、神として信仰されていて、食べるなどは論外のことであった。それが宮中や将軍、大名の間で賞讃されるようになって、江戸城や金沢城で鶴の包丁式が黒書院で行われた例があるが、正月とは限らず日時不定らしいので、鶴が獲れた時の行事だったのかも知れない。京都御所へは将軍が贈るもので、こちらは塩漬けの鶴だったようだ。いずれにしても、常時獲れるものではなく、庶民が捕獲することは禁止されていたといふ。

「鶴ごろし」といえば芝居の「奥州安達原」の有名な一場面で、鶴捕獲禁止の現実を反映したものかも知れないが、この芝居では、鶴の首に付けられている金札を取ろうとして鶴を射るのであって、食べるためではなかった。

鶴が減少したので折り紙に変えたといふのは、いつの時代を想定した説なのだろうか。

一人の芸術家とは

テレビ番組はなお続いて驚かせてくれた。

「さらに江戸時代、折り紙は一人の芸術家の手によって発展をとげます。」ここでCMがはいるのはいつもの通り。「折

鶴」ではなく「折り紙」と言っていることにも注意されたい。

「当時大人気だった絵師、喜多川歌磨が描いた浮世絵、そこには折鶴が描かれていました。この絵がきっかけとなって、折り紙は急速に広まっていったと言われています。」いつごろ誰が言っているのか、是非知りたいものである。

折り紙を発展させた「一人の芸術家」が「西川祐信」ではなくて「歌磨」とは意外であった。それでは遅すぎる。

祐信は京都の絵師だが、江戸でも、春信、清長、豊国、北斎など折鶴を描いた絵師はいくらもいたのだ。「この絵がきっかけ」と限定できるものではなかろう。

「その影響は着物の柄のカタログにまで載るほどでした。」友禅染めの新柄図案集(雑形本)の方が早く元禄期に出現したのだ。この解説者は100年ほど時代を間違えているらしい。

それにしてもこれだけ具体的に解説しているところを見ると、だれか不勉強な「専門家」が教えたに違いないと思うが、困ったものである。

世界の風呂敷との関係

実はこの番組の出だしは面白かった。大阪の国立民族学博物館で先ごろ開催されていた「世界大風呂敷展」の紹介があって(これをナレーターが「セカイダイワロシキテン」と読んだのは正解だろうが、私だったら「おおぶろしき」と洒落て読みたい)、世界25ヶ国で使用されている400枚という「風呂敷」を瞥見することができたのだ。ただし、本当に「風呂敷」なのか、ショールではないのか、判らないと思っていると、

「例えば、ゲアテマラの風呂敷、ステ。物を包むだけでなく洋服の代わりにもなるすぐれもの。」と解説があって、腰巻状の衣服にしている画面になった。これをも現代の若い人は「洋服」と呼んでいるようだ。「洋服」とはもっと狭い意味の語であった。何の関係も無いことだが、「和紙」と称して「洋紙」を売っていた店の主人が「日本製の紙が和紙だ」と強弁していたのを思い出した。

「風呂敷—そもそも日本でその名が歴史上に登場するのは、奈良時代のサウナのような蒸し風呂に……」これも奈良時代にすでに「風呂敷」という語が存在していたということになってしまった。

とりわけ、世界各国の風呂敷の話がそれっきり消えてしまったことは、この番組が「欠陥商品」であることを端的に示していたと思うのである。すなわち、後半に荒木さんたちが力説していた「新鮮で清浄なものであることを示す」「中と外とで区切られているという結界の考え方」「日本古来の謙譲のこころが秘められている」などという「風呂敷」(礼法折り紙ではない)の持つ意味に対する主張が説得力を失ってしまった。他の国々の包みの意味が全く説明されなかったので、どこが日本独特なのか分からぬからである。

それに、折り筋を付け直すことさえ出来ず、一回かぎりの贈り物のラッピングである白紙の折形と、贈り物を包んで何回も使用する風呂敷との相違も曖昧で、テーマが何だったのか、すっきりしない思いがのこった。荒木さんに大きなタラバ蟹を包ませるなど、奇を衒うことしか発想できないテレビ人間の浅薄さだけが際立った番組だった。幸いなことに、すでにこのシリーズは放映されていない。

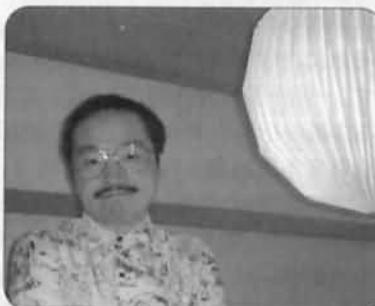
折紙 散歩

やつぱり

Origami Sampo Indeed

You can find colorful lunch boxes at supermarkets in Japan. Those boxes are called oribako (bako=box), because disposable lunch boxes were made from bended ("Bend" is "ori" in Japanese) thin wood boards at one time. Therefore, many food package dealers have business names including "Ori" at present. This time, I found a dealer "Yamaguchi Orizuru Ten". I don't know why orizuru (paper crane) not oribako is the name. It even is not related with Mr. Yamaguchi Makoto.

前号で、日本橋の丸善を、梶井基次郎の『檸檬』の舞台と書きましたが、岡村昌夫さんから、小説にでてくるのは日本橋ではなく、京都の丸善だと指摘されました。その通りです。ただ、この話の元になった梶井の草稿は、彼が東京に遊んだときのもので、丸善も日本橋店だそうです。



筆者紹介＝東京生まれ。折り紙創作・研究家。折鶴モノコレクター。「一足めのわらじ」は科学技術計算。阪神タイガースの熱狂的なファン。

折り箱の話

Remarks on Oribako

全折食品容器連合会

折り箱(折箱)という言葉がある。布施知子さんの作品群のことではない。一般にはあまり使われない言葉だ。しかし、そこから生まれたよく知られた言葉もある。「食品などを折り箱に詰めること。また、詰めたもの」(大辞林)つまり、「折り詰め」である。この「折り詰め」から派生した「菓子折り」「寿司折り」などの言葉もある。

で、折り箱とはなにか。「薄い板や厚紙を折り曲げて作った箱」(大辞林)のことである。「薄い板や厚紙」とあるが、そもそもは、杉・桧などを薄く削いだ板を折ってつくった箱を指し、一説には千年以上前からあったとされるが、明治以降に駅弁などの普及と共に広く流通するようになったものである。なお、「杉・桧などを薄く削いだ板」は、「経木」と呼ばれるが、これは、紙の代わりに、そうした板に経を書いたことからきた名であるとされる。よく似たもので、紙の普及以前に文字を書きつけることを目的とした竹の札を「簡」というが、日本語のカミの語源はこのカンであるとも言われている。

と、ウンチクをカタムケてしまったわけだが、話は折り箱である。あまり使われない言葉と書いたが、その道ではよく知られていて、職業別電話帳の職業名・サービス名一覧の項目にもなっている。職業分野として認知されていると言つてよいだろう。ただ、電話帳の職業名というのは、「フラメンコ教室」とか、「ストロー製造・卸」「いのしし料理」など、妙に細分化されていて、何を基準としているのはいまひとつ不明である。中には、「昆虫類」という、職業の分類というより生物の分類じゃないの、というようなものもある。(標本の販売などだろうけれどね) なお、残念ながら、職業別電話帳には、「漫画家」は

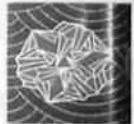
あっても「折紙作家」はない。

なんにせよ、「折り箱」はその道では一般的な言葉である。「全折食品容器連合会」(全日本折箱食品容器連合の略と思われる)という団体があることもその証左だ。ちなみに、この業界で折り箱というのは、「板を折り曲げて作った箱」のことだけではなく、コンビニエンスストアの弁当に使われているよう、プラスティックの成型された箱も含んでいる。折っていない箱なのに、折箱。それに詰めれば、折り詰め。さらに略されて折り。携帯電話をケータイと呼ぶようなものである。日本語は難しい。

さて、ここでわたしが注目したのは、全折食品容器連合会の加盟店者の屋号である。折り箱業者なので、「折」の字がはいっている。これがなかなか面白い。折仙、折群、折覺商店、折勘商店、折庄産業、小松折箱など。なにか「別の業者」のようである。そしてわたしは、リストをつらつらとながめていて、あっと声をあげるものを見つけたのである。実は、このリスト入手以前に、山梨県甲府市に「折鶴商店」という折箱業者があることをつきとめ、それを確かめるためだけに甲府にも行っていました。しかし、今回発見



折鶴模様のプラスティックの「折り箱」
Plastic "Oribako" with paper crane pattern





折鶴商店(山梨県甲府市)
Orizuru Shoten (Kofu city,
Yamanashi pref.)

したのは、それをしのぐ屋号である。じゃーん。その名も「山口折鶴店」。あははは。日本折紙学会事務局長の名字+折鶴+商店である。こいつあ、自らの眼で確認しなければ気がすまないぞ。ということで、わたしは、山口折鶴店のある埼玉県川越市に向かった。

結論。なにもなかった。山口折鶴店には、電話帳によると、有)山口折鶴店と、有)山口折鶴店／包装資材センターのふたつがあり、案外大きい会社かと思ったのだが、その推測は、現地にて一瞬にして崩れ去った。本社(?)の山口折鶴店は、住宅街の一角にある小さな家。看板はなし。それはしかたがない。しかし、ポストにも屋号がないのはどうしたことだ。ひとの気配もない。落胆し、「包装資材センター」に向かう。住所表示の変更

オリヤス株 代(042) 922-

栗原折店(049) 292-
佐野経木(0429) 72-
山口折鶴店有 (049) 222-

電話帳の山口折鶴店
Yamaguchi-Orizuru-Ten on the telephone book

があったようで、電話帳の住所とは異なっていたが、散歩で磨いた勘で、目指す場所はすぐに見つけた。中に折り箱や包装用物品が積み上げられているプレハブの建物。軒下に雨ざらしになつた箱もある。悪いけれど、雑然という感じである。やはり看板はない。まあ、こんなものだろうなあと、夕暮れの街でため息をついたのだが、ふと、この倉庫がどこかに似ているという感覚が浮んできた。どこだ? そう、山口真氏の東京の家である。氏の東京の家は、おりがみはうすガレージブックと『折紙探偵団』のバックナンバーの倉庫と化しているのである。ひとことで評するなら、雑然。

それにしても、山口折箱店ではなく、なんでも山口折鶴店なのだろう。謎である。

「謎である」って、気になるひともいるかもしれないが、「唐突で申し訳有りませんが、お宅様の屋号は、なぜ山口折鶴店さんですか」と電話をかけて訊くという自らの行動を想像したとき、我ながらあまりに怪しいと思い、その行動を取ることができず、謎は謎のままなのである。山口真氏自らに確認してもらうのが一番かもしれない。しかし、山口折鶴店さんも、まさかこんなところで話題になっているとは知らないだろうなあ。

量めマス

先にも述べたように、折り箱というは、「折ってつくった箱」だけを意味しない。これは、「折り箱」という言葉を知っているひとでも勘違いしていることが多いが、ケーキ屋さんで持ち帰りに使うような折り畳める箱のことでもない。和菓子は菓子折りと言うが、ケーキはそう言わなきことを見ると、ケーキの箱は「折り箱」ではないのかもしれない。まあ、それは冗談



紙枡(江戸後期 長野県東部町
海野宿歴史民俗資料館)
Kami-Masu (paper measure box,
18th century, Tobu town, Nagano pref.)

にしても、業界でも、折り畳み可能な箱には特別の呼称はないようである。

ただ、折り紙的に面白いのは、折り畳みが可能な箱である。この手のパッケージング技法は、折り紙周辺の話題として、それだけでも興味深いものであるが、最近わたしは、こうした箱の先祖のようなものを発見した。最後にそれを報告して、多少なりとも折り紙らしい記事として、『やっぱり折紙散歩』の第1回を締めくりたい。じっさい、ここまで話、ほとんど折り紙に関係がないからねえ。

折り畳みが可能な箱の先祖。それは、「紙枡」と呼ばれる、商人が大豆や小豆の買い出しに持ち歩いた、携帯用の計量枡である。江戸時代の街並みが残る海野宿(長野県小県郡東部町)の史料館で見つけたもので、この写真では見にくいが、嵩が正しいことを示すのか、了承印のようなものも押してある。この資料自体の年代は判然としないが、江戸後期のものであるようだ。折り畳みかたとしてはごくふつうであるが、なかなか興味深い。

なお、まったくの偶然であるが、今回の記事の舞台である川越と海野宿は、町並みの美しさで知られ、共に小江戸と呼ばれるところである。つまり、散歩がたのしい町なのである。

「おざぶ・6枚組み」

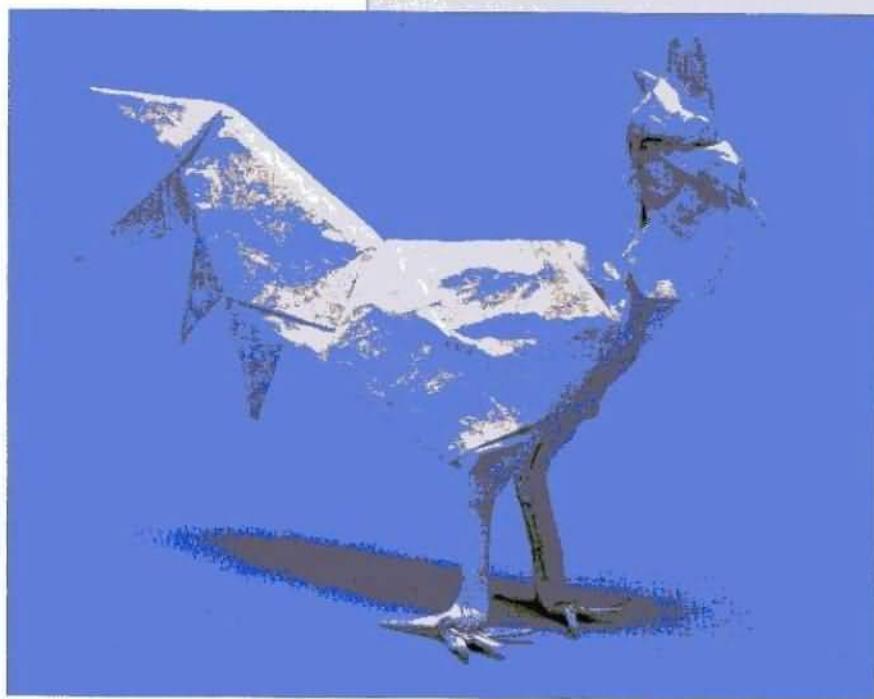
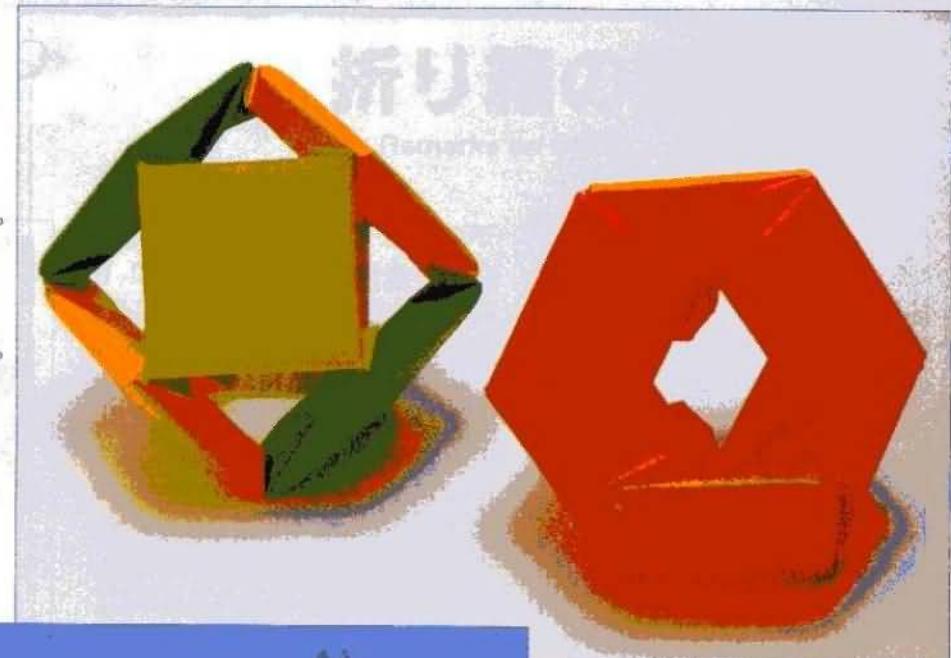
作：川村みゆき (P.4)

Cuboctahedron with

6 OZABU Units :

Kawamura Miyuki (P.4)

■今号からの新連載、川村氏の「やわらかユニット物語」。毎号に盛り込まれる、これまでのユニットになかった斬新な発想をお楽しみに。作品のネーミングもユニークですね。



「にわとり」

作：宮島 登 (P.22)

Rooster : Miyajima Noboru (P.22)

■折り紙らしく無理のない技法を主体に構成しつつ、重量感・安定感あふれる造形を同時に達成した「にわとり」。折り図から、作者の思考の過程や模索の跡をたどってみてください。

「舟形トートバッグ」 作：山口 真 (P.8)

Tote Bag in a Shape of a Boat :
Yamaguchi Makoto (P.8)

■新コーナー「おりがみ我楽多市」では、実用折り紙・色紙などの分野から、簡単に折れて製作後も楽しめる作品を幅広く掲載していく予定。今回は、実際に使える舟形トートバッグを紹介します。



正方形 From a Square



長方形 From a Rectangle



〈テボン紀後期〉 The Late Devonian Period

「第5回 折り紙王選手権優勝作品 5億7500万年分の1年」作：神谷哲史
Prehistoric Histories: Won The 5th TV Champion Origami Award : Kamiya Satoshi

■3月13日に放映された「TVチャンピオン 第五回折り紙王選手権」では、神谷氏が前人未踏の三連覇をなしとげました。出場時の作品写真を一堂に集めた永久保存版です。



〈ジュラ紀〉 The Jurassic Period



〈第四紀更新世〉 The Pleistocene



〈カンブリア紀〉 The Cambrian Period

「黒い森の魔女」作：神谷哲史 A Witch in a Black Forest : Kamiya Satoshi

TV放映時のあの驚きをもう一度。1回戦で使用され、見事にトップ通過をもぎとった作品です。魔女がドラゴンに一瞬で変身！



にわとり

ROOSTER

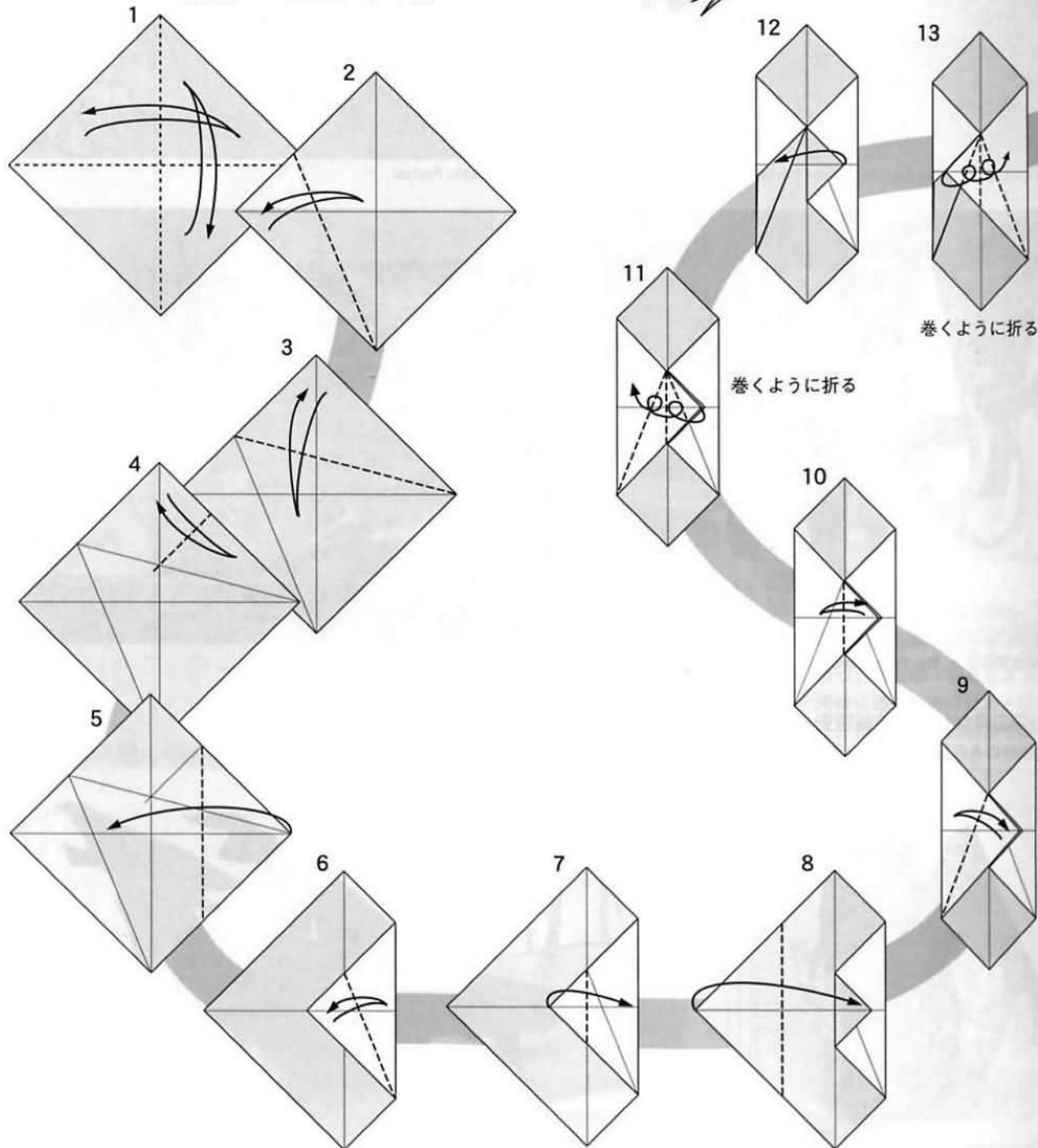
作／図 宮島 登

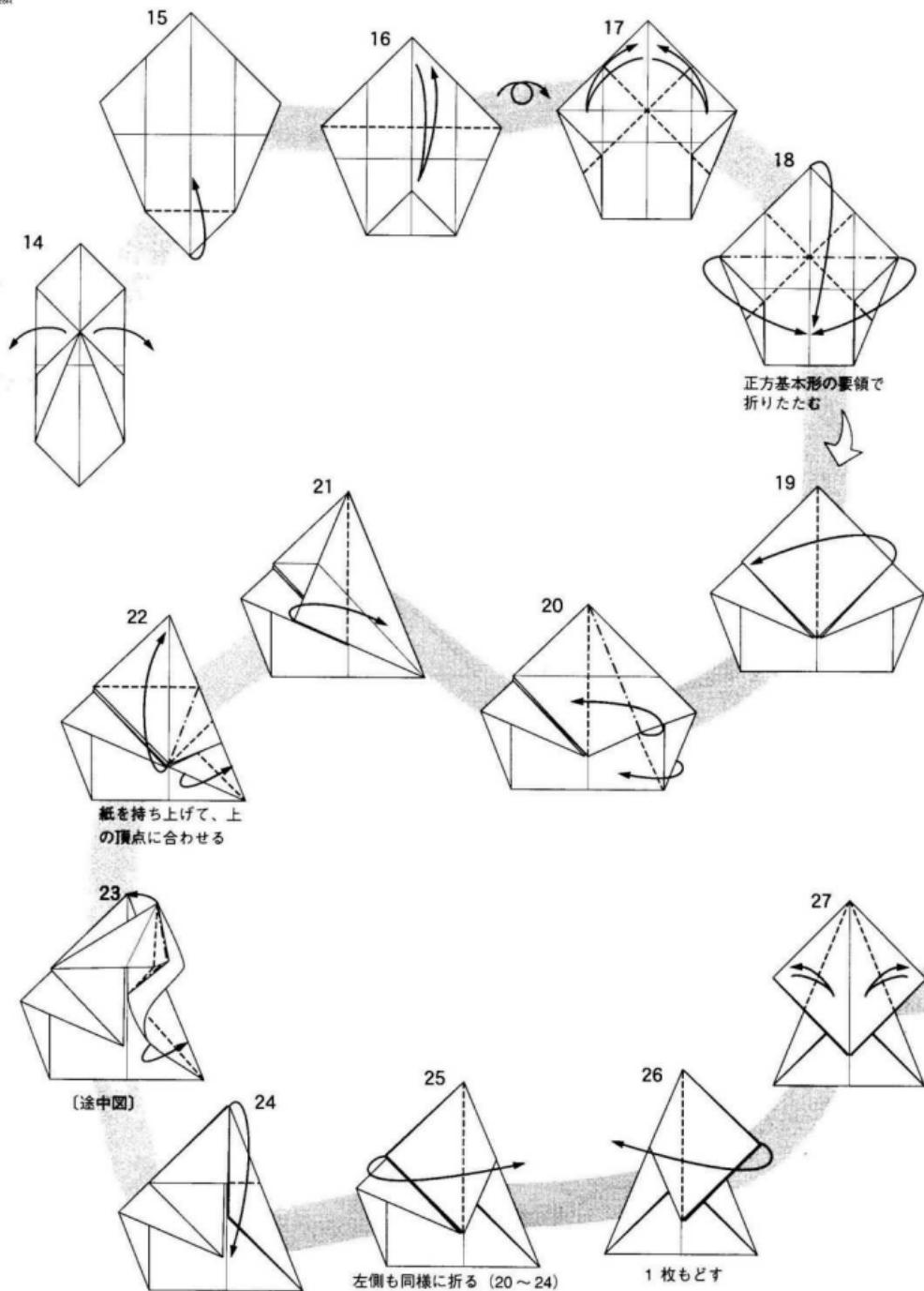
Design & Diagrams by Miyajima Noboru

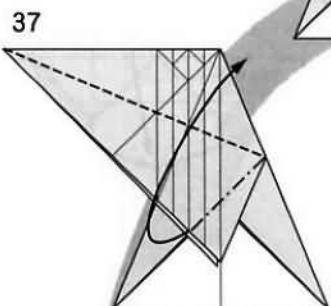
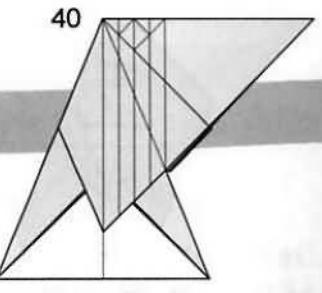
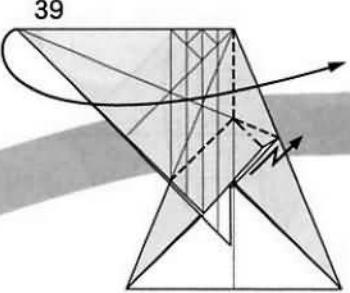
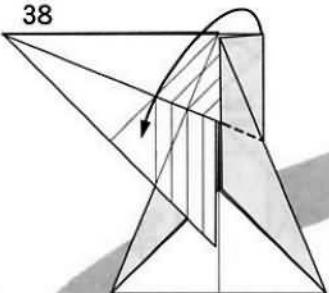
創作 2002年4月
作図 2003年4月



※ホイル紙で折ってください。
足の細さを出せませんので。

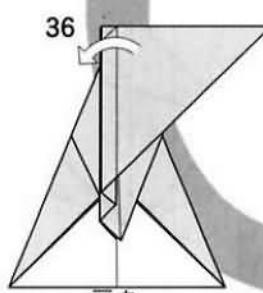




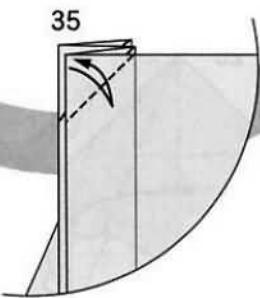


段折りして引き寄せながら、右側にたおす

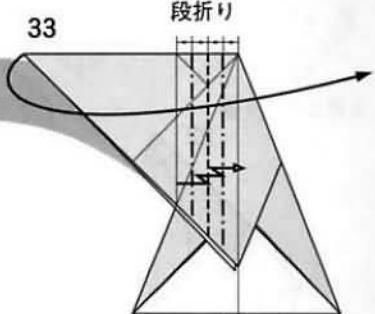
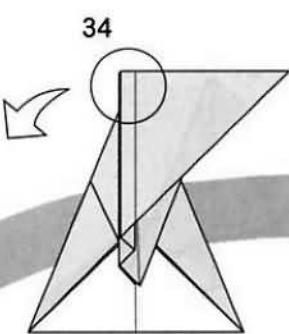
左側も同様に折る
(37～38)



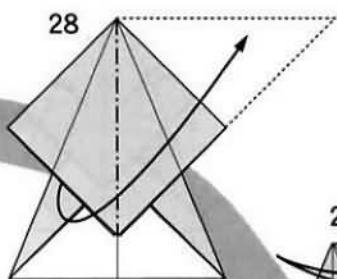
戻す



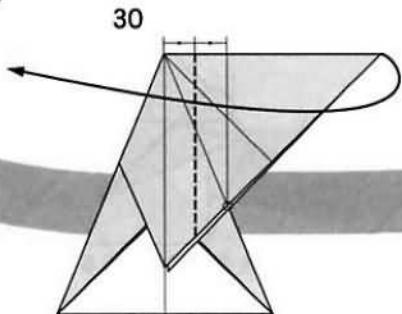
折り筋をつける
(2箇所)



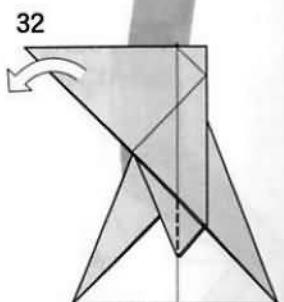
段折り



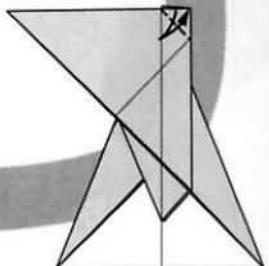
29

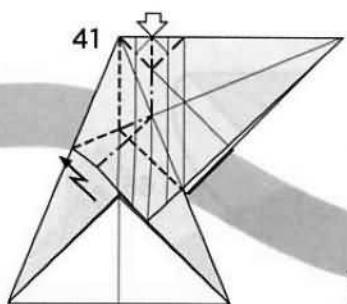


24

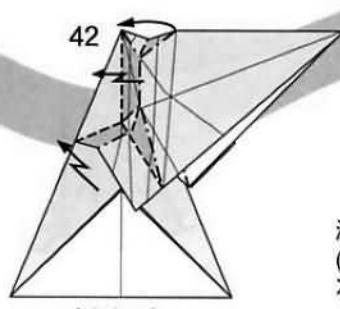


31

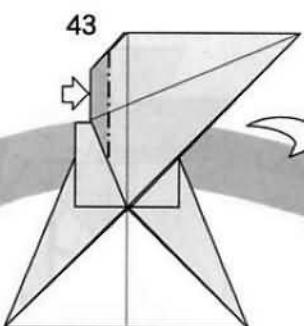




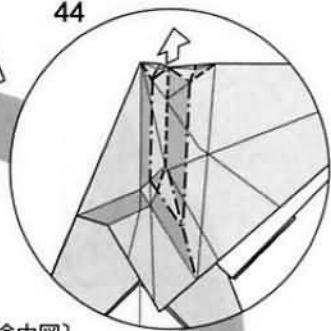
段折りして左側に引き寄せながら、白抜き矢印部分を押し込むように折る



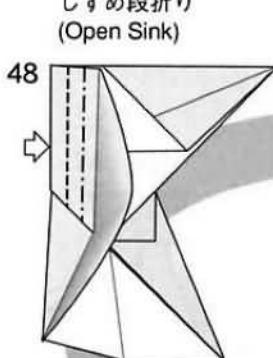
[途中図]



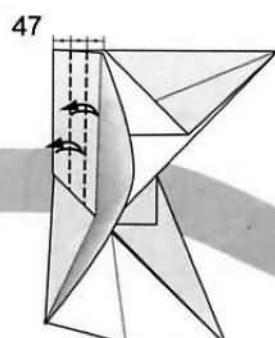
濃い網掛け部分をしづめ折り
(Open Sink)
次の図をよく見ること！



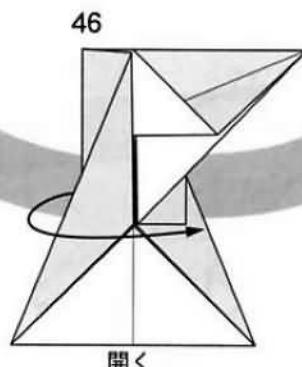
[途中図]
しづめ折りしながら、上部の頂点部を上方に引っ張り上げる



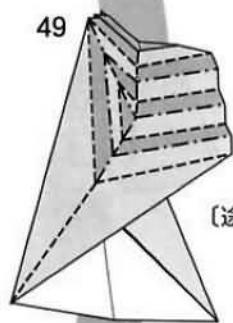
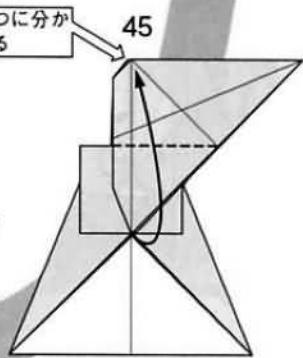
しづめ段折り
(Open Sink)



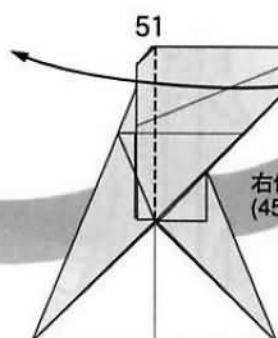
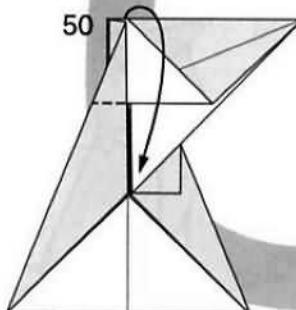
3等分して折り筋をつける



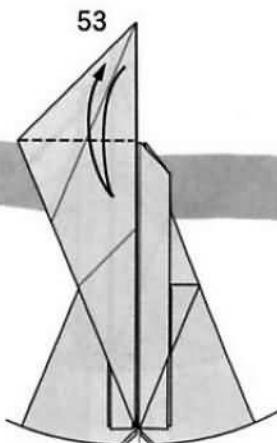
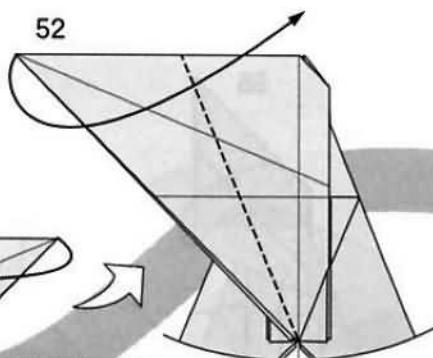
開く

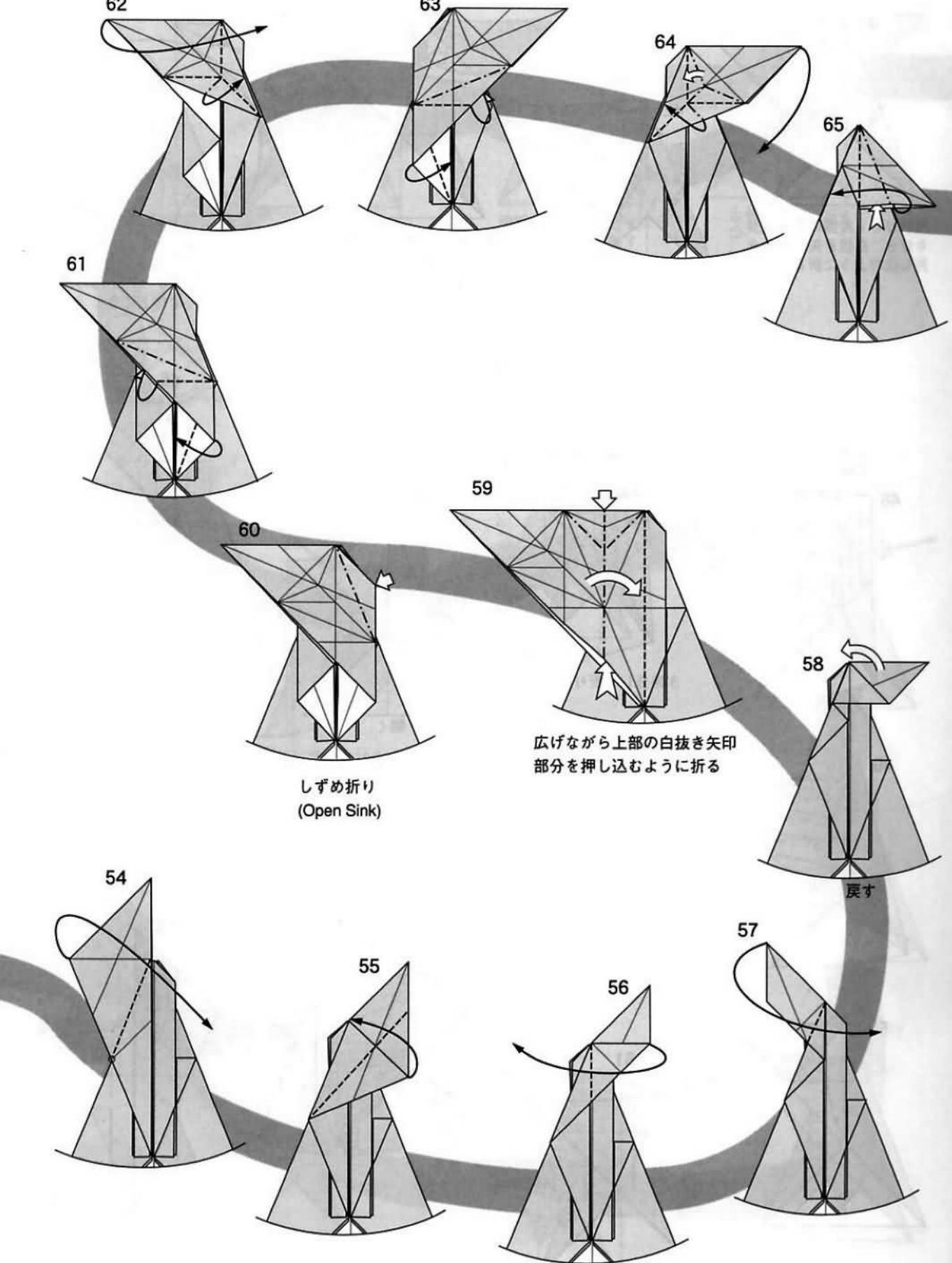


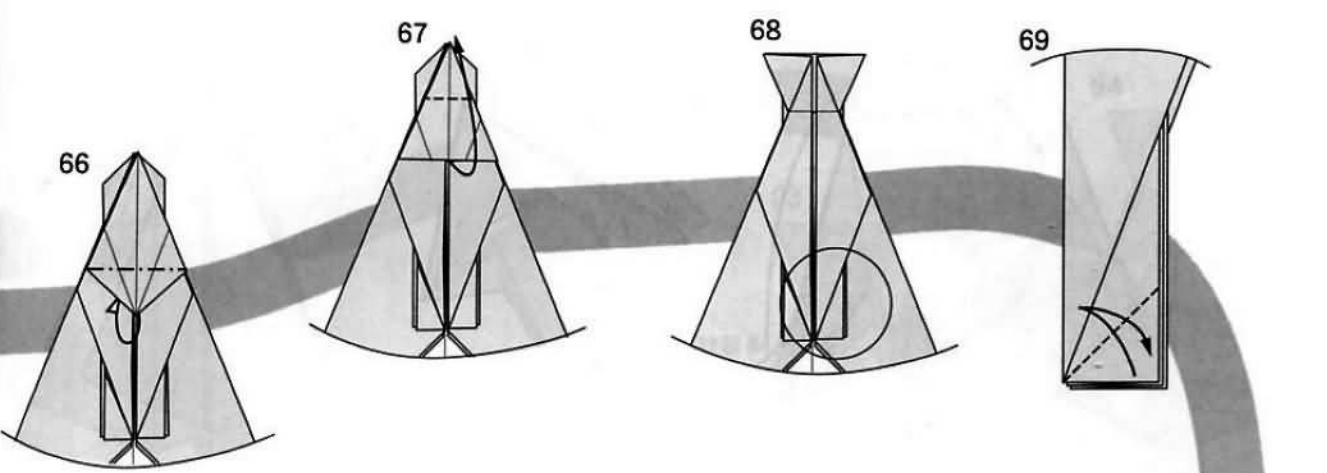
[途中図]



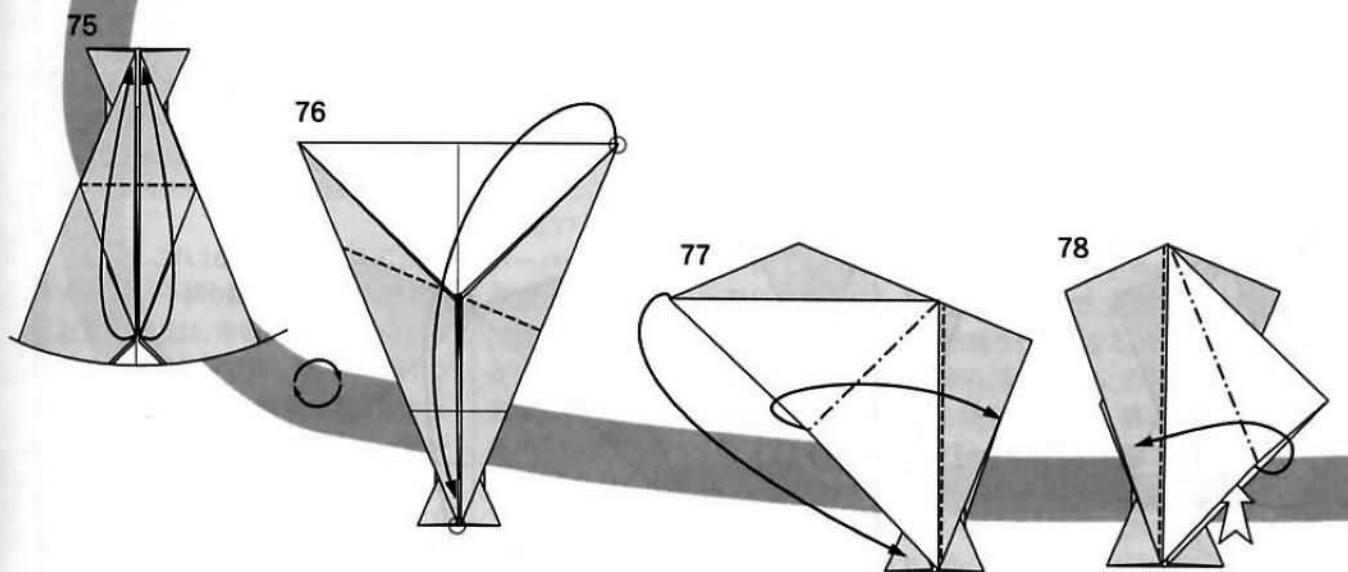
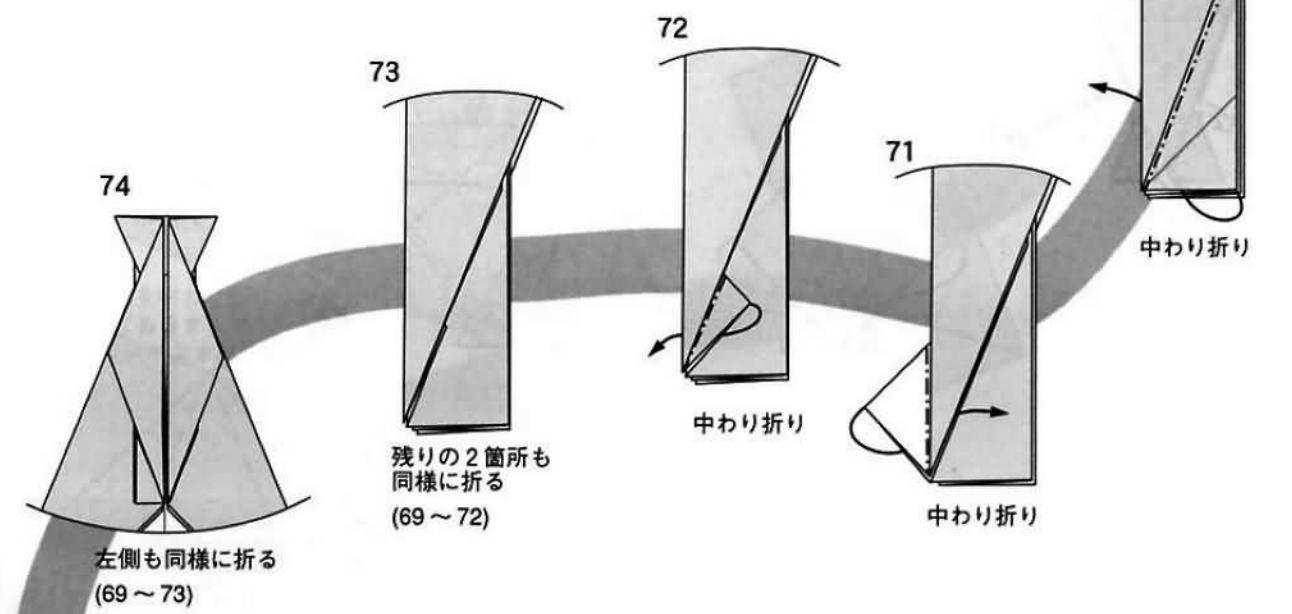
右側も同様に折る
(45～50)



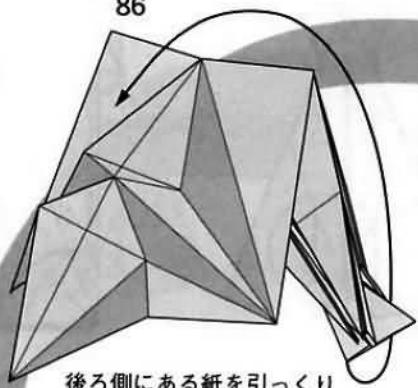




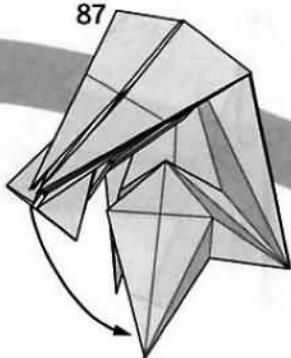
山折り
(すぐ下に差し込む)



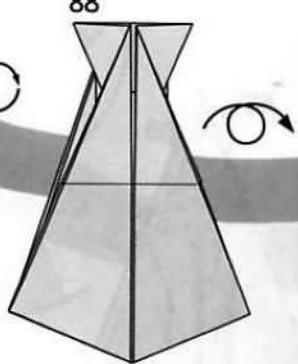
86



87

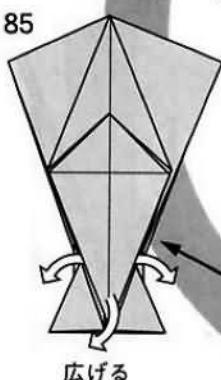


88

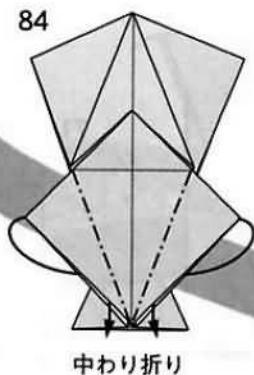


[途中図]

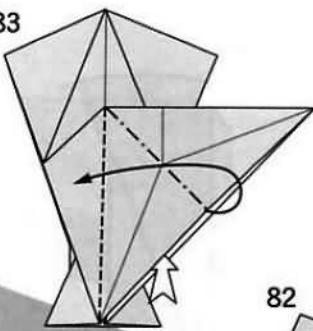
85



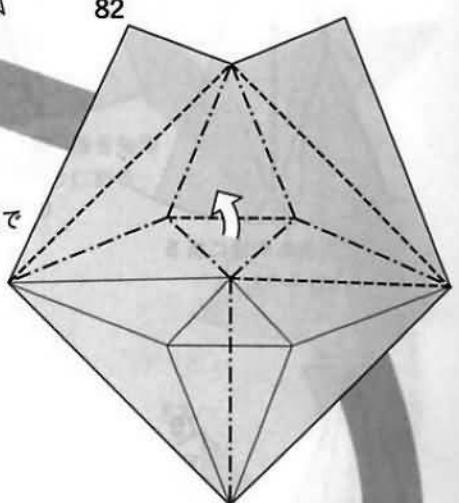
84



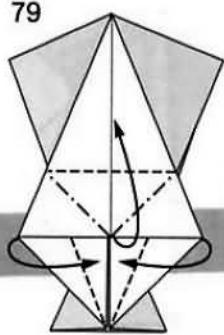
83



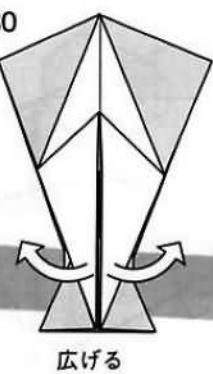
82



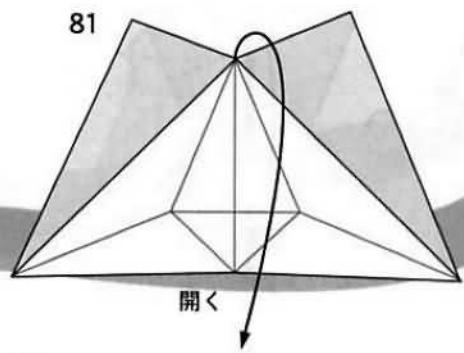
79

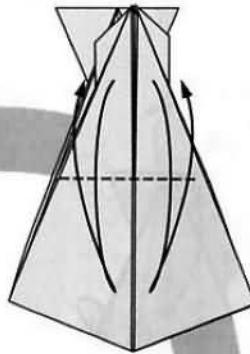


80

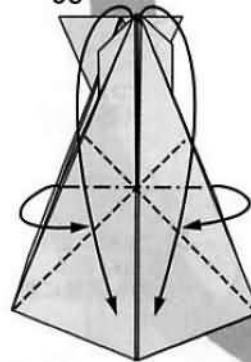


81



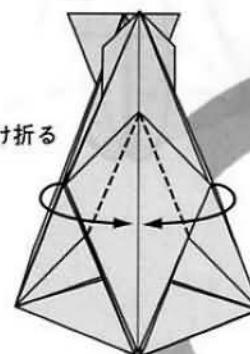


90



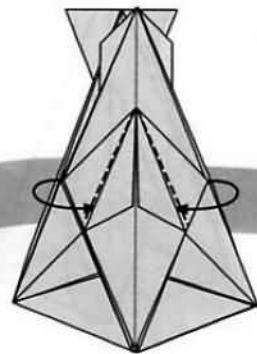
両側を中わり折りしながら下におろす
(風船の基本形に似ている)

93



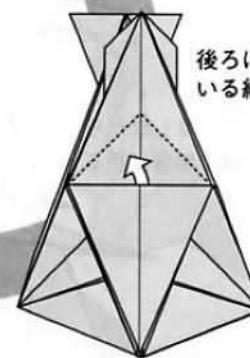
両側を
1枚だけ折る

94



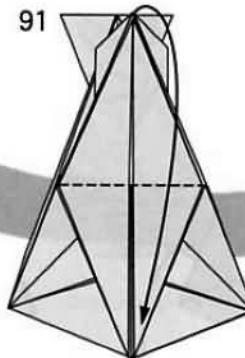
両側を折り、
下側に入れる

92



後ろに折られて
いる紙を戻す

1枚だけ下におろす



折り紙の 周辺

第1回 「紙」 Paper

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

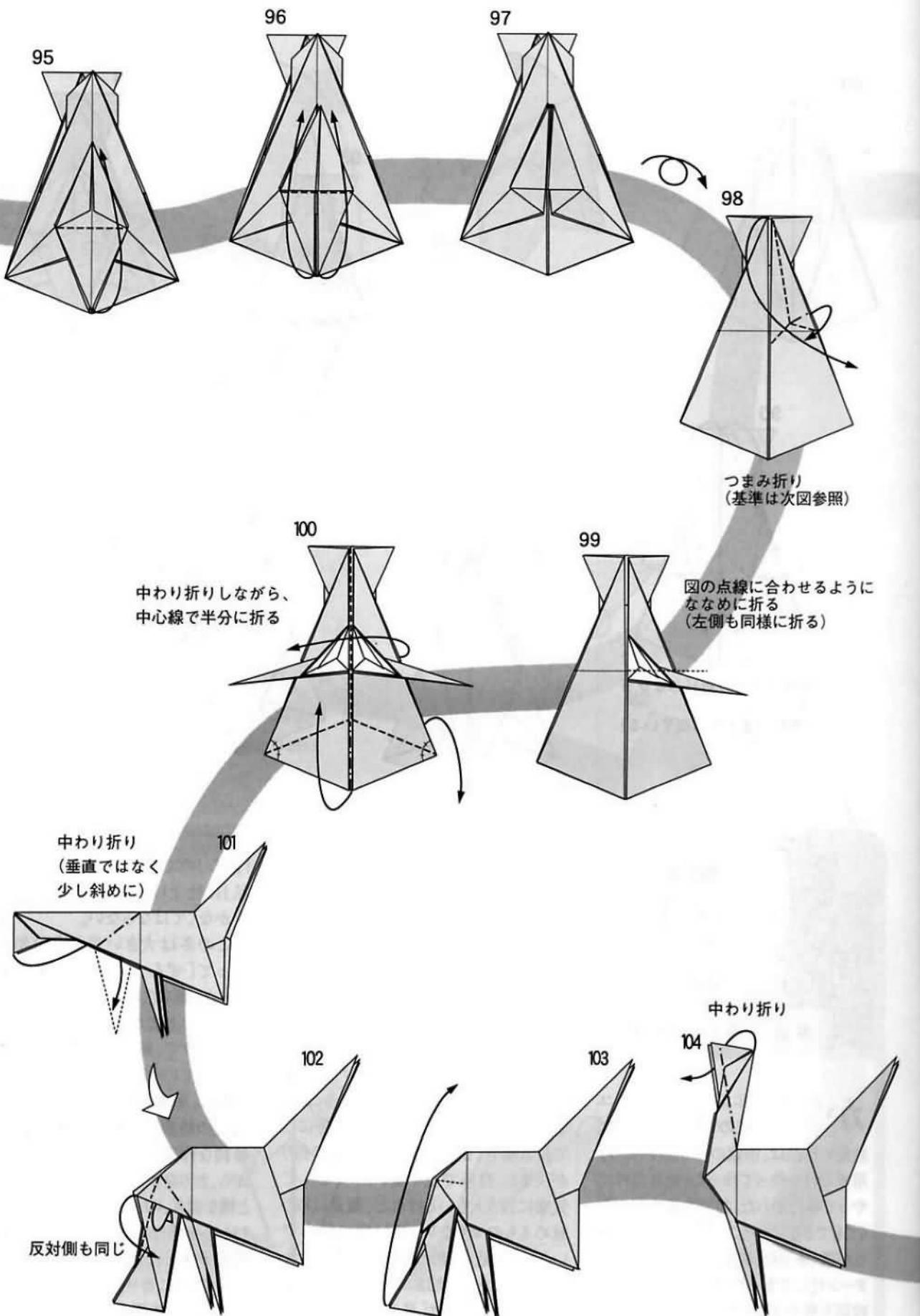
かれこれ20年前、はじめてのユニット折り紙の本と、それに続く数冊の作品は、市販の単色のおりがみ用紙だけを使って作った。それだけでやってみたかった。特別な紙を使わなくともできる、ということを言いたい気持ちが強くあった。制限の中で配色がパターン化して参った。配色にこんなにも時間を費やすことが意外だった。友人

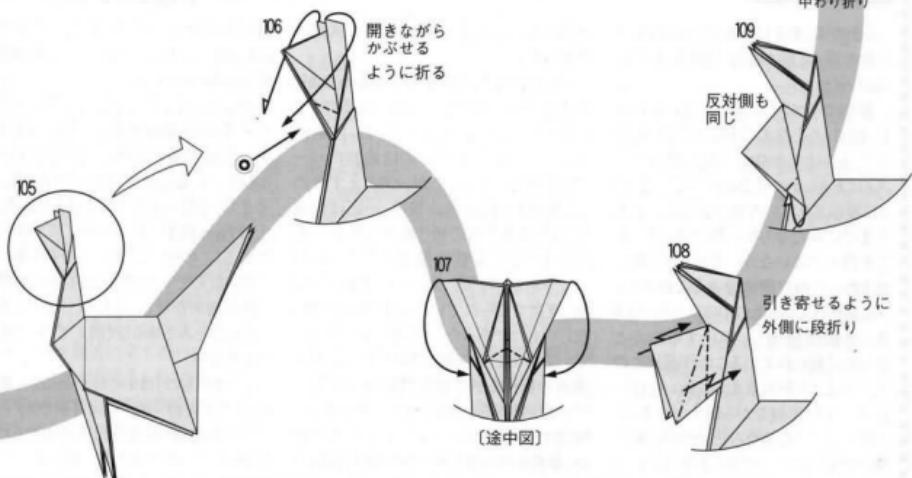
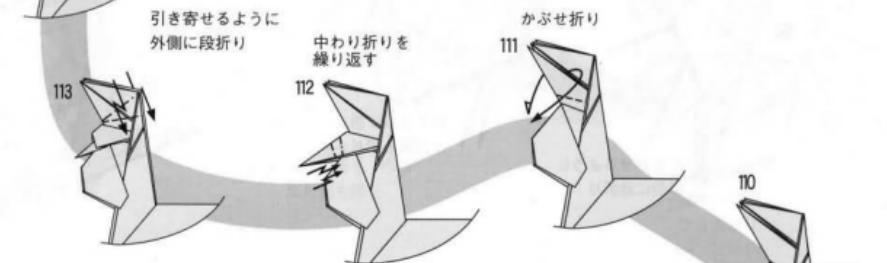
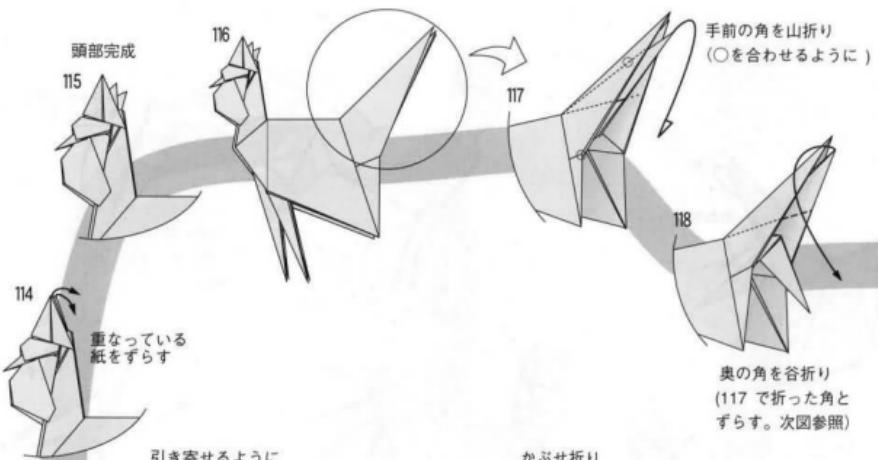
知人をつかまえては、この中から2色選べと迫ったりした。紙質は一様だったので、問題は色だけだった。おりがみ用紙が折り紙専用の特別な紙だとは、そのとき思ってもみなかった。

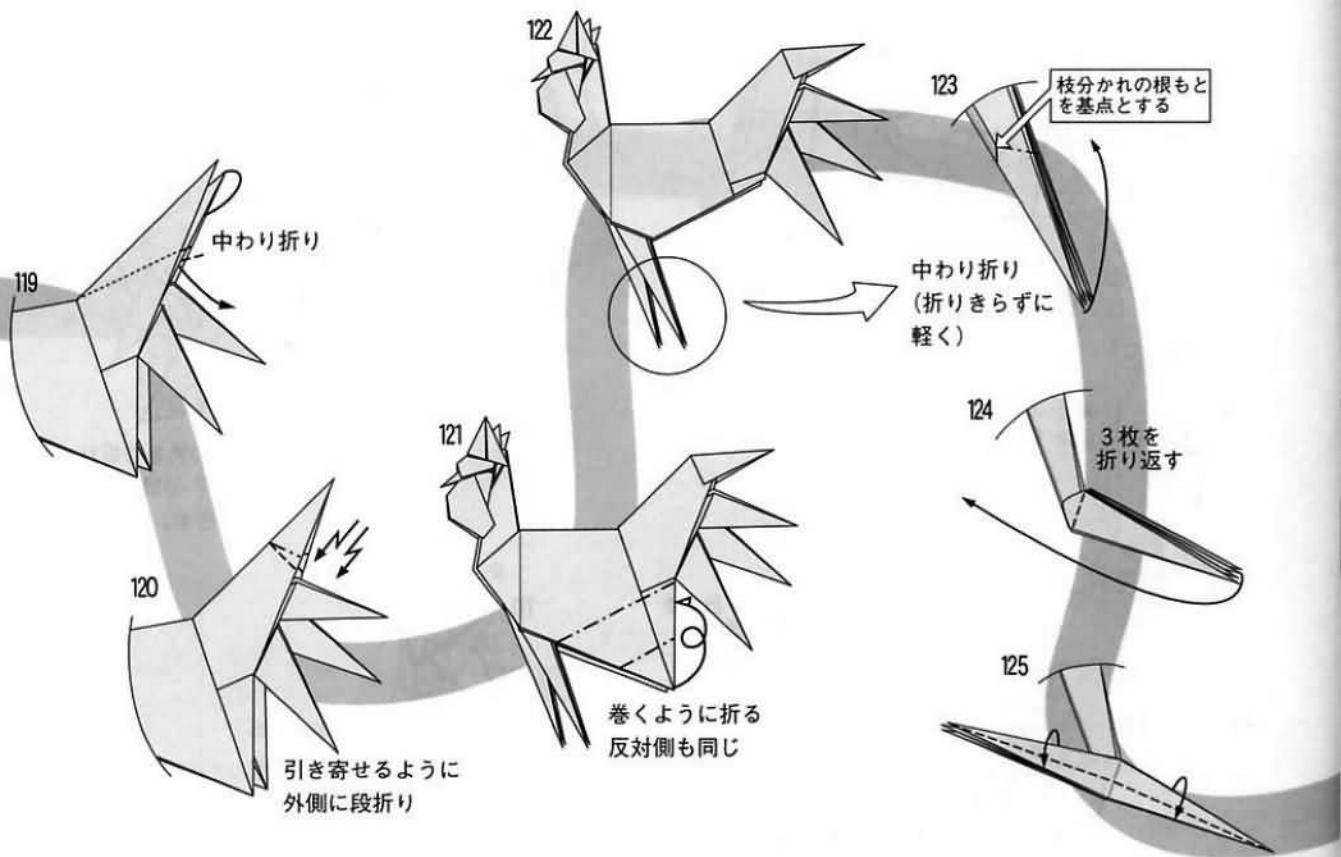
その後、千代紙や包装紙や雑多な紙を使うようになり、紙質に気を配るようになった。というより、折り紙は紙質が先、ということを改めて知った。今後ペーパーレスの折り紙が出てくることも予想されるけれど、実際に紙を手にして折る場合、折りは紙を選び、紙で折りが決まる。自分で紙を漉いたら、なんて気楽に言う人もいるけれど、簡単に取り組めるものでもない。紙は店に並んでいるものを見たり触ったりして、あれこれと思いめぐらす。実はこれが夢膨らむ楽しい時間。折り図は「見る」のではなくて

「読む」のであって、そこから「見る作品」に仕上げるには、紙や色調に心碎かなくてはならない。

この冬は大きい手漉きの和紙を使って「ぜんまい折り」を集中的にやった。紙を広げてくまなく見渡し、繊維の流れと広がりを見る。これから時間をかけて、紙の隅々まで手で触り、折りしていくのだ。しんとした気持ちになる。基本線をつけるのが苦しい緊張の時間で、折りに入れば比較的単純な作業となる。そして線を引きながら、折りながら、否応でもずっとずっと楮を剥ぎ、叩き、晒し、漉いた人の手技と心を感じことになる。折りと紙の呼吸があったとき、紙は指と折りに吸い付くように寄り添い、ほかほかと暖かく幸せな時間が訪れる。







おり すじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

ぼくのたからもの

My Precious Things

中村和也

Nakamura Kazuya

「その本」を手に入れたのは10年ほど前の夏、東京は晴海、国際見本市会場だった。模型のイベントが行われている会場を、紙ぶくろを抱えてうろついているなかで見つけたそのブースは、他のブースとはあきらかに異なる存在だった。そこに展示されていた物は折り紙、しかも今までにみた事もない物であった。本こそ持つてはいなかったが、折り紙は好きだったので興味津々そこのスタッフに話かけては、世の中にはこういう団体(折紙探偵団)も存在するのかと思った。「飾られているこの作品はこの本で折ることが出来ますよ」という甘い言葉に半信半疑ながら購入、「まあ、ええ暇つぶしになるやろ」というのが家に帰って実際に折ってみるまでの正直な

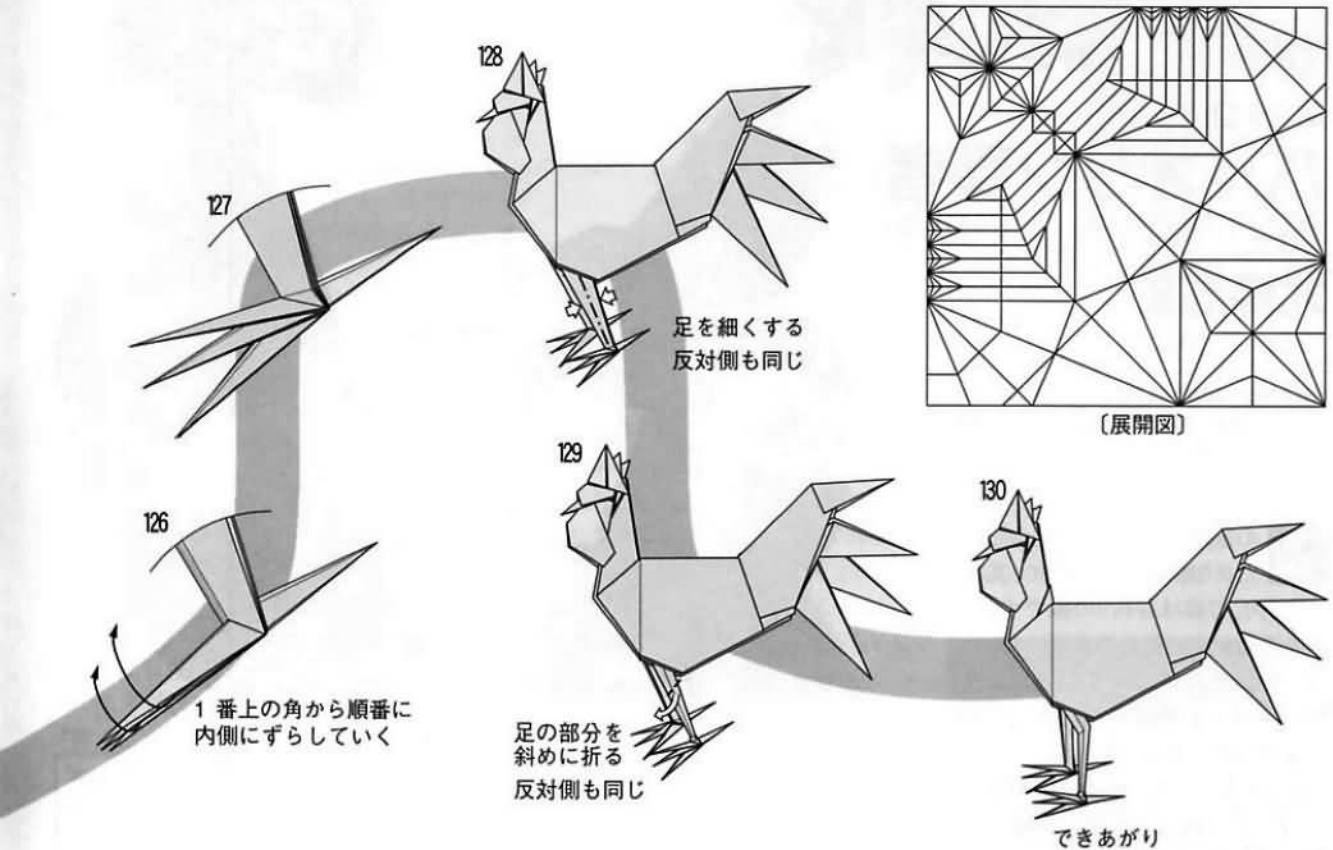
気持ちやったと思う(甘い言葉に眞実はなかった)。

その当時、別に趣味ではなかったが、貧乏症の私の机にはいつからあるのかもわからない折り紙が入っていた。技術についていけていないのは最初のバーツであきらかになったが、とりあえずそのまま無理無理折り進み��け、一応は完成了。だが余り物の折り紙は当然単一色のはずもなく、複数枚使用するその作品のできあがりは実にカラフルであった反面、東京で飾られていた迫力はなく、実に悲しいものであった。「折図とセットになっている折り紙(購入時折図には15cm両面同色の折り紙が必要枚数分セットになっていた)で折るのはまだ早い」そう感じて練習でもう1体折り、いよいよセット品に挑戦、単色の折り紙を使い折りあげ、自作の

飾り台にのせた完成品は、自分の中では最初にこの作品に出会った時の感動そのものだった。

ひとつの作品を完成させる為に同じサイズの折り紙が21枚と出来上がるまでの枚数が多いだけに、そう何体も折りあげているわけではないけれども、今までに1枚の大きさが小は2.5cm角、大は79cm角まで色々なサイズで折っている。この中にはすべてを折りあげた後、組んでいる最中に自分の部屋に飾る場所がないことに気づき、なくなく完成品をみる事もなく消えていったものもあるが。

「たからもの」はいくつかあるが、私の中では吉野一生さんの『ティラノサウルス全身骨格折図』はその中でもひとときわちがった存在となっている。



折紙三昧

(15)

Origami-Zanmai (This Origami and That)

片づけ下手の言い訳

How I Should Be Bad at Tidying

「駅すばあと」というコンピューターソフトをご存じの方も多いことでしょう。出発駅と到着駅を入力すると、時刻表データなどと連動して瞬時にルートや乗り継ぎ時間を教えてくれる、出張などの計画には頼りになるソフトウェアです。これに頼るようになって数年、妙なことに感心するようになりました。ソフトの出力に従って列車に乗って窓外をぼんやり眺めていくと、途中の駅名がすこぶる新鮮なのです。ひどいときは、2、3週間前に目的地であった駅が、今回の目的地の直ぐ近くであることを間近に来て初めて認識する、なんてことが起こるようになります。地図や時刻表で途中駅を指で辿りながら見ていれば、前回の訪問地も当然気がつくというものです。そう言えば、漢字忘

れをワープロの所為にしたのはもう10年以上前のことだなあと変な感慨に耽っています。そんな連想から、乱雑に積み上げられた机上の書類の中からそれ程の苦もなく目的の1枚を探し当てる人の仕組みがふと頭に浮かびました。きれいに分類された書類から目的のものを選び出すに比べると、乱雑なそれは個々には多少時間はかかるでしょう。けれども、この山に有ったはずだと見当はほとんど外れることなく、周辺をバラバラ捲り探し当てる。実はこの時に周辺を見ていることが重要で、そうしながら次回の書類探しに役立つ葉が無意識に頭の中に出来上がっているということではないでしょうか。ちょっとした手間(整理しておく事ではなく、バラバラ見てることです)の効用を定量的に表すのは難

しそうですが、意外に大きいに違いありません。折紙の折り手順などは正に目的の形を得るために通じてはなく、何時か目的地となる多くの駅を無意識に辿り、見たことのある風景と新鮮な風景を感じ取る重要な時間を与えてくれます。出来上りの形そのものに引けを取らない大事なものを与えてくれていると思います。

今号から折紙探偵団誌も14期目にに入ります。誌面も連載ものを幾つかリニューアルしました。新規あるいは引き続き購読していただいた皆さまに感謝申し上げます。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに

Crease Pattern

Challenge!

桃源社

第25回

バイオリン奏者

Violinist

(2003年版)

北條高史

Hojo Takashi

Created : 2003.05.02

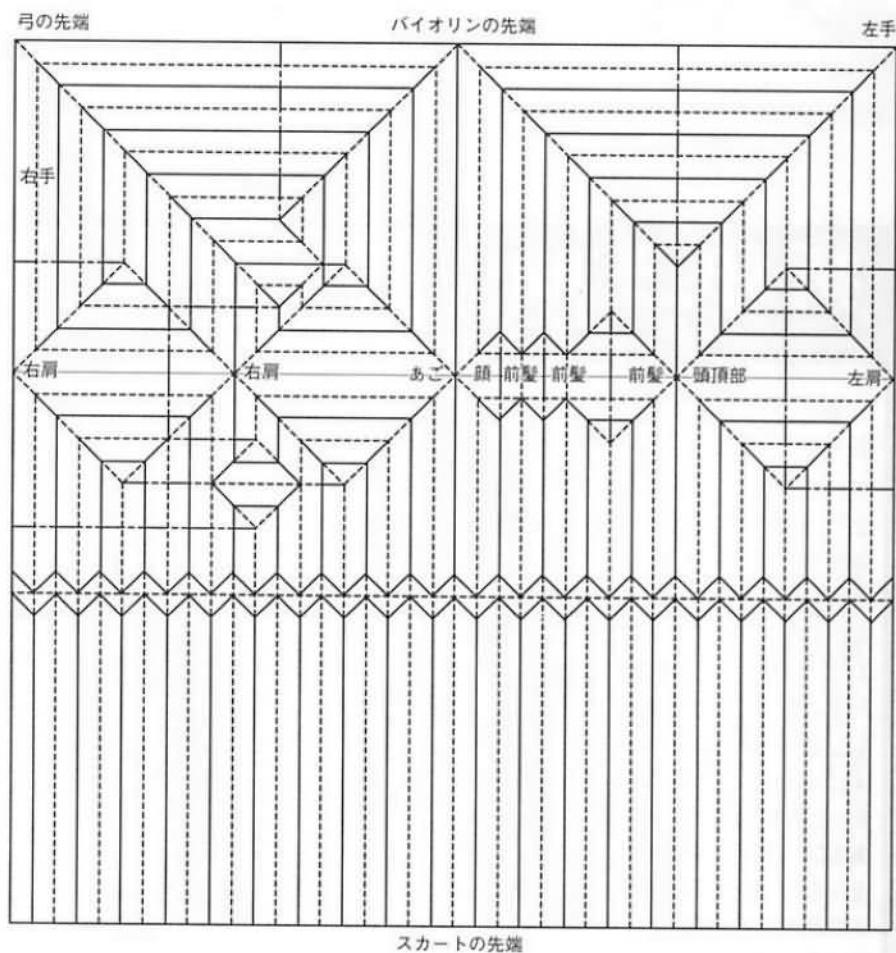
Paper Size : 50×50 cm

Height : 27cm

この展開図は用紙の裏から見た折り線を示したもので、実線は山折り、点線は谷折りの線です。用紙の両面が完成作品の表面にあらわれるため、実際に制作するときには表裏同色の紙を使用するとよいでしょう。全体のおおまかな構造は辺を40等分した蛇腹折りで、上方から8分の3の位置で用紙内部から頭部の構造を引き出しています。

「バイオリン奏者」というテーマを折り紙作品にするにあたっては、バイオリンを持つ上半身に複雑な構造が集中し、逆に下半身は空疎なイメージになります。これまで筆者は同じテーマでいくつか創作をしていますが、この点は常に悩みの種でした。今回の作品では全体のイメージ・情報量のバランスを調整するため、上半身を極端に小さくデザインしてみました。さらにスカート全体に細かくプリーツを施し、段差と装飾的な折りを加えています。この段差の折り出しは、すでに幾何的な作品で多用されている構造ですが、人物造形で使用した例はありませんのでは、と思っています。

右腕に弓を持った形状とするため、腕の長さを左右非対称にすべく内部構造に手を加えています。ここに示している展開図以外に、さらに合理的に左右非対称のカドを折り出せる構造も考えましたが、用紙の重なり・厚みをデザイン的に処理しにくかったため今回の構造におちつきました。



筆者がこれまでに発表している「バイオリン奏者」は、季刊『をる』第4号や拙作ホームページ「北條高史創作折紙作品集 現代折り紙」<http://www1.ocn.ne.jp/~origami/> で見ることができます。

File-5

小方 弘巳

Ogata Hiromi

取材・松浦英子(おりがみはうす)

Matsuura Eiko (Origamihouse)

小方弘巳(おがた・ひろみ)=1953年生まれ。
日大芸術学部デザイン科卒。陶芸作家。

小方さんは、栃木県益子町に窯を持つ陶芸家。その職業からか、折り紙1年で創作を始め、作品は立体的なものが多いようです。



—折り紙をはじめたきっかけは。—

6年前、娘がそのころ折り紙が好きで、折り紙の本を求めてたどり着いたのがおりがみはうすで、そこで折紙探偵団コンベンション(第3回)の参加を勧められたんだよ。その後、自分でも折って創作するようになったんだよね。今はもう、娘は折り紙しなくなったんだけどさ。

—折り紙を始めていきなり創作に入る方は多くないように思うのですが。—

モノづくりをして暮らしているから、創作することに、特別な感覚はありませんよね。粘土を使うか、紙を使うかの違いで、作品を創っているだけで、私にとっては普通のことだな。一番最初は、鳥のようなものが出来上がってね。そこから膨らませてペンギンへも発展したけど、どんどん膨らんで、未だに答えはみつかんないね。やみくもに折って、ひろげて、やりなおし。この繰り返しが多いな。

一小方さんの作品はどれも立体的ですね—

自分の作品は紙で包むような感覚のものが多いね。神谷くんの「龍神」なんかは、紙を畳んでその厚みを利用して立体感を出しているけど、私の場合は大体中が空洞で、パッケージ的かな。空気を包むような感じで折り畳んでいって、仕上げ

の段階でポンと立体にするっていうパターンだね。

—仕事も創作の時間ですが、折り紙の創作はいつ取り組んでいらっしゃるのでしょうか?—

窯の番をしている間に折ることが多いかな。窯を焼くときは、何日間仲間と交代しながら徹夜で番をするんだよね。その間折ってる。あと仕事の合間、それから仕事をしたくないときかな。かあちゃんに見つかって怒られるんだけど(笑)。

—陶芸と折り紙はずいぶん違うものに思えるのですが、何か共通点はありますか?—

うーん、私の取り組む陶芸は、器などの実用品で使えることが大事だけど、折り紙は実用でない創作。それぞれ違った魅力があって楽しめるよ。

共通点といえば、どちらもゼロから10まで、自分で取り組める良さかな。自分で問題をつくって、自分で答えを探すんだよ。良いも悪いも自分が決める。自分で答えを出す。煩わしくなくていいよね。だから、学校で取り組むグループワークが苦手だったけど(笑)。

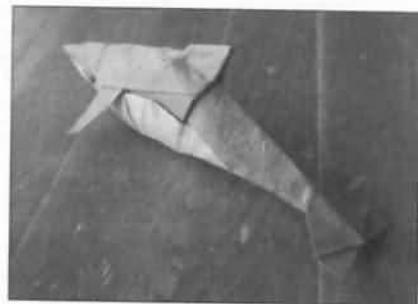
一小方さんの折り紙の制約はやはり「不切正方1枚折り」?—

制約というわけでもないけれど、自分が他人の折り図を見て、紙が変形だと

それで折る気がしなくなっちゃう。正方形が基本。他の道はわからん!

取材を終えて

正方形1枚という制約を持ちながら、既成概念にとらわれず、自分の感覚で折り紙を受け入れ、自由に発展させていく小方さん。アーティストらしい姿勢を感じました。



▲22.5度くずしのイルカ



◀創作初期のペンギン。本誌61号に写真掲載の「Don't Freeze」は、ここから発展

▶カンガルー



▼なんとアルミホイルで試作して、ひろげてまとめなおしたというトカゲ

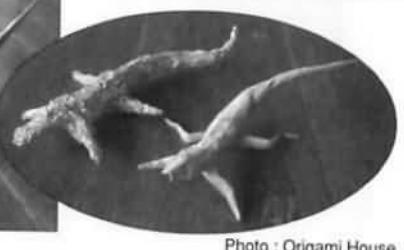


Photo: Origami House



▲小方氏の仕事場

折り紙の試作の山発見▶



Rabbit Ear

つまみおり

Information

第9回折紙探偵団 コンベンション 参加募集開始!

今年のコンベンションは会場の都合もあって、暑い時期を少しづらした8月後半の開催となった。毎年多くの参加者から「いちばん暑いときね。」という声が多く聞かれる8月のはじめと違って少しは暑さの和らぐ時期にずらしての開催となる。例年、海外から参加する人達には耐えられない暑さのようだった。

コンベンションは今年も全てボランティアの力で運営される。そこで、「少しくらいなら手伝ってあげよう」という人は協力していただけるとうれしい。きっと少し違ったコンベンション参加になるだろう。今年も充実したコンベンションを目指している。

特別講演会

今年の吉野一生基金招待者であるロバート・J・ラング氏の講演をはじめ興味深いラインナップを企画している。貴重な体験になること間違いない。(詳細次号)

折り紙教室

シンプルからコンプレックス作品まで折紙探偵団コンベンションならではの折り紙教室は素敵な作品と出会えるチャンスです。作者自ら作品を教える教室は魅力一杯。受講のプライオリティーは参加申し込み用紙の先着順となっているので、希望の講習を受

けるためにも、お申し込みはお早めに。

お楽しみ懇親会

折り紙仲間が集い、飲み、食べ、おしゃべりと折り紙で盛り上がる気軽で楽しい夕食会。恒例のイベントも鋭意企画中だが皆さんのアイデアも募集中である。

折り紙アイテムオークション

毎年貴重なアイテムが登場する折り紙アイテムオークション。今年はどんなものが出でてくるのか今から楽しみである。売り上げは全て吉野一生基金に寄付される。折り紙関連グッズ提供者募集中。

吉野一生基金招待者

今年の吉野一生基金招待者の1人は世界的に著名的な折紙作家であるアメリカのロバート・J・ラング氏に決まった。氏のことは本誌75号(34ページ)でも紹介し

ていますのでご覧下さい。

さらにもう1名を招待する予定で進行中です。候補は挙がっていますが、現在返事待ちとなっています。次号で詳しくお知らせします。

コンベンション会場で作品を展示しませんか

コンベンション期間中、会場であなたの作品を展示してください。コンベンション参加者なら誰でも歓迎、自分の創作でなくてもかまいません。

◆出陳申込方法 事前の申し込みは必要ありません。当日ご自分の作品と展示札(各自作成)をお持ちください。

◆作品規定 大きさ、数など特に制限は設けませんが、原則的に搬入、搬出は個人の責任においてお願いします。作品の破損・盗難に関しての責任はこちらでは負いません。大切な作品は各自で管理してください。

◆展示方法 詳細は参加申込された後お知らせ致します。作品展示札には「出品者名・作品名・創作者名」等を記載して頂きます。作成方法、大きさ等の詳細も後日参加申込受理票送付の際、お知らせさせて頂きます。

■会場 東洋大学

(東京都文京区白山)

■日程

●8月22日(金) 特別講演会

受付=12:00~

講演=13:30~17:00

(講演会のみの参加=無料)

●8月23日(土)

受付=9:00~

折り紙教室=13:10~17:00

お楽しみ懇親会=18:00~

●8月24日(日)

受付=9:00~

折り紙教室=10:40~16:20

オークション=16:30~

■参加費(折り紙用紙、バッジなど含む)

大人=5,000円

学生(小、中、高、大学生)=4,000円

※折り図集別売:予価2,000円

親子割引:保護者に同伴される小学生以下の児童は半額となります。但し折り紙用紙等の配布は除外されます。

■お楽しみ懇親会(希望者のみ)

●8月23日(土)18:00~ 場所:未定

●参加費=大人5,000円(予定)

小学生以下4,000円(予定)

■宿泊(希望者のみ)

1泊素泊まり=5,700円(税別)

一泊朝食付き=6,500円(税別)

22日・23日及び前泊、後泊を含めて予約を受け付けます。

※やむを得ず、プログラム等の予定が変更となる場合があります。ご了承ください。

◆スペインに行ってきました

スペイン国際折り紙コンベンションレポート

神谷哲史

2003年5月1~4日に行われたスペイン国際折り紙コンベンションに国際交流基金の支援をうけ参加しました。

参加人数は120人程の中型のコンベンション。全体の2割ほどがスペイン国外からの参加者で、ヨーロッパ各国、特にフランスからの参加者が多く、さすが隣合っているという事を実感しました。また、男性の比率が高かったのも印象的でした。(多くのコンベンションは女性の参加者の方が多い。探偵団のコンベンションなどは例外的といえるかもしれません。)

会場は大学内の寮のような施設で、ベッドまで1分ということもあってか遅くまで折り続ける(話し続ける)人も多かったようで、話し声で眠れない人もいたとか。こういう部分はどこへ行っても同じですね。

進行はアットホームな雰囲気で行われ、国民性なのかよくいえばおおらか、悪くいえばルーズな部分もなきにしもあらず。スタッフに若手の人が多く作業をうまく分担していたのにはとても感心しました。

面白いのがコンベンションの日程に観光が含まれている事です。コンベンション

の行われたサンティアゴ・デ・コンポステラの町をツアーバスで一通り回り、町の中心にある教会の屋根へ上がった後、市内で行われている折り紙の展示会へというコースで、朝から晩まで折り紙漬けになるコンベンション中ちょうど良い清涼剤になりました。

担当したクラスでは遠慮なく超難解作品を教えるという暴挙にしました。よい生徒さんにも助けられどうにか終了したもの、まだまだ教えるのが下手だなあと実感。

展示作品の中で個人的に惹かれたのはまずManuel Sirgo氏の精巧な昆虫等、とくにロブスターは非常に迫力があります。最近本を出されたそうでとても楽しみです。また、Ramin Razaniさんの折り紙建築の技法を使用した幾何作品。恐竜、空想動物等を得意とするFernando Gilgado氏の人物群。魔法のじゅうたん、ランプの精などは着眼点がとても面白いと感じました。

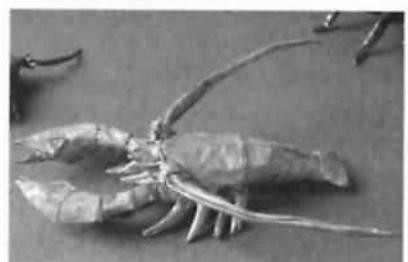
コンベンション後、グループ・サラゴサの例会に行くことも出来ました。1950年設立というグループでそのことに誇りを持っているように感じました。

あつと言葉でしたがとても充実していて、ぜひまた行きたいと感じさせるコンベンションでした。



▲Fernando Gilgado氏の魔法のランプ

▼Manuel Sirgo氏のロブスター



◆京都に行ってきました

第4回関西コンベンションレポート 木村良寿

毎年微妙に日付がずれる関西コンベンション、今年は5月10日(土)と11日(日)に行われました。会場は今回も交通至便なキャンパスプラザ京都です。二階に上がると受付で、おなじみティラノサウルス全身骨格がお出迎え。今年もまた参加者は増え続け、120人以上にもなったとのことです。

全体会の後、4つの部屋・6つの教室に



▲紙ちぎり大会

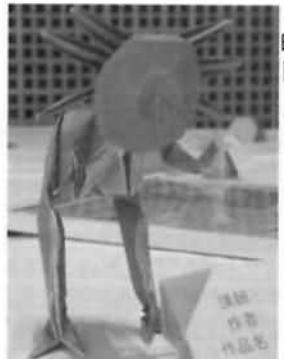
分かれて講習開始。教室の一つは茶室にも使える閑静な和室。かさこそと紙の音だけが聞こえる中、黙々と「おおめだま」を折る人々。その後もここではデジタル数字、はさみむし、さそりといったまことに

和室にふさわしい作品群が折り続けられていました。

初日の教室が終わったら懇親会。会場はやはり京都駅のそばで、駅ビルよりも新しい、ぱるるプラザの8階。とてもきれいな会場です。おなじみ和久敷也さんのマジックに続き、2分間で15cmの折り紙用紙を手でちぎってどれだけ長くできるかを競う紙ちぎり大会。2mをゆうに超えた加茂弘郎さんが優勝です。うーむ、今年からはハサミ禁止に加えてちぎり禁止マークも作らねば。さらにはみんなでお互いにサインしあってbingoカードを作り、人名bingo開始。優勝賞品はウクレレでした。

あいにく雨の二日目。異例の3時間講習は川島町消防隊の田中まさしさん、「あくまこあくま」(まごあくま・今回は三段組)の展開図折り教室。45cmの特大用紙でさえ苦闘二時間数十分、最初に完成したのは吉田圭介さんでした。

最後の全体会では講習・展示作品の人気投票結果発表。第一位は「信楽たぬき」。加茂



田中孝氏の「おおめだま」

さん二冠王であります。さらにプレゼント抽選会では、おいまたかよ抹茶キャラメルなどの賞品が

配られたのですが、第一位の折鶴の鋳物がついた風鈴ですを獲得したのは、おいまたかよ村木厚紀くん。

スタッフの皆さんのお手伝いぶりの楽しいコンベンションでした。来年も呼んでください。

▶人気No.1、加茂弘郎氏の「信楽たぬき」



◆日本応用数学学会折紙研究部会発足 前川 淳

去る3月20日、東京目黒の東京工業大学で、「日本応用数学学会 折紙研究部会」の第1回の例会が開かれた。この会の発起人は、同大学の萩原一郎さんで、長年自動車の衝突破壊の研究をしてきた研究者である。というと、それのどこが「折り紙」に関係があるのだろう?と首をひねるひともいるだろうが、自動車のボディーのような板金の破壊は、ある種の「折り目をつける」出来事であり、その点で大いに「折り紙」に関係があるのだ。

今回の例会では、航空宇宙機構造学が

専門の野島武敏さん(京都大学)の「数理折り紙工学の提唱」、本誌でおなじみの川崎敏和さんの「折り紙の幾何」と題された講演、さらに、折り紙とは直接関係はないが、「BEYOND MEASURE - Guided Tour Through Nature, Myth, and Number」などの著書で、幾何学を歴史的・文化的な文脈の中に位置づける業績で知られるJay Kappraffさん(ニュージャージー工科大学)の多面体モデル等に関する発表があった。

筆者(前川)が最も興味深く聴いたのは、野島さんの、宇宙空間での大面積建造物

(アンテナや太陽電池パネル、ソーラーセイルなど)の折り畳み等に関する発表であった。折り紙に関する同様の構造物では、三浦公亮さんのミウラ折りが有名だが、野島さんのものは、螺旋状の折り目を用いた別の構造によるもので、折り紙バフォーマー・ジェレミー・シェイファーさんの「フランジャー」に似た構造を、数理的に解析したものである。

会は、今後、工学者、数学者、教育者などを巻き込んで、広い関心領域を持ちながら、定期的に開かれていく予定のことである。会の活動が、折り紙の数理的、工学的側面をより深めていくことを、大いに期待したい。

◆緯線・プラウト『造形和紙彫刻』展

緯線(イーセン)・プラウト氏の「造形和紙彫刻」展が福井県今立町の卯立の工芸館で開催される。約1年間今立町の伝統的産業である和紙の紙漉の勉強をしたプラウト氏(76号34ページ参照)が1年間の紙漉技術の推移を凝縮した展示会を開く。今回の展示会は紙漉・折紙・書道、日本の3つの伝統を現代美術という形で表現したそうだ。

今立町の書道家、木津大朴氏と協力して作り上げた作品は、墨の線を生かしながら和紙の持っている独特な風合いを意識した作品に仕上がったとのこと。柿渋で堅くした和紙を使って、角度を付けた作品や柔

らかい和紙で作った流動的な作品などが展示される。

期間=

2003年6月1日(日)~6月21日(土)

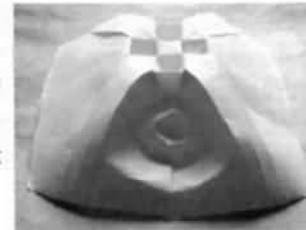
午前9時~午後4時(毎週火曜日休館)

会場=卯立の工芸館

福井県今立郡今立町新在家9-21-1

電話=0778-43-7800

入館料=大人200円 小中学生100円



◆雑誌『折紙探偵団』の配達に関する注意とお願い

この雑誌は「クロネコメール便」にて配達されています。郵便と違い、住所表記が少しでも違っていたり、省略されていたりすると場合により配達されないことがあります。配達された封筒のラベルのお名前、ご住所(アパート名、部屋の号数、屋号等)を良く確認して頂き、万が一間違いがありました場合は、お知らせ下さい。また表札が出ていない、ポストの大きさが不十分などの場合も配達されない事があります。宛名の変更や配達条件等に注意が必要な方は事務局までご連絡下さい。

東京友の会

会場=文京シビックセンター

参加費=300円(中学生以下100円)／講習会=14:00~/研究会=16:00~/

●6月7日(土) 5階 中小企業振興センター研修室／講師:池上牛雄 作品:小便小僧

●7月5日(土) 4階 シルバーホール 実習室／講師:未定 作品:未定

●お引っ越し等での住所変更の際も、転居先が決まりましたら事前に事務局へ直接ご連絡ください。郵便局への転居届けでは転送されません。ご連絡が遅くなると、発送済み冊子の回収ができなくなります。この場合、再発送は実費負担となりますので予めご了承ください。

日本折紙学会事務局

TEL&FAX: 03-5684-6080

OPEN: 10:00~18:00(日祝休)

E-mail: webman@origami.gr.jp

静岡友の会

●7月6日(日)／参加費=500円／時間=10:30~12:00／会場=増武ビル／お問い合わせ:16~20時) 054-254-4541(増武内山口)へ。

関西友の会

会場=長岡京産業文化会館

●6月14日(日) 14:00~17:00 参加費=500円

●17:00から懇親会／参加費=5,000円程度

■ORIGAMITANTEIDAN / No.79 / Published on 25, May, 2003 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216
Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Violinist" Produced by Hojo Takashi : Photographed by Sato Hitoshi / Publisher : Nishikawa Seiji / Editor in Chief : Yamaguchi Makoto / Editor : Matsuura Eiko / Editorial Design : ORIGAMI HOUSE / Translator : Tateishi Koichi

◆午前3時のお茶会

TEA PARTY at 3:00a.m.

橘高美保子 折紙作品展

橘高美保子氏の作品展「午前3時のお茶会」が2003年6月24日(火)から6月29日(日)まで京都のギャラリー翔(京都市左京区北山通下鴨中通東入北側)で開かれる。

開催時間は午前11時から午後6時まで、最終日は午後5時までとなっている。

<http://www.yk.rim.or.jp/~ga-sho>



ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

団員パスワード / Pyramid(大文字・小文字別)

関西友の会 <http://kobe.cool.ne.jp/tatekoo/>

編集後記

関西コンベンション楽しかったみたいでとてもうらやましいです。我々は奇数月の10日前後はマガジンの編集作業でいちばん手を離せないとき、残念ながら参加することができませんでした。来年はもう少しづれてくれるとい嬉しいな。

折紙探偵団

2003年5月25日発行 第14巻1号通巻79号

発行所 / 日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人 / 西川誠司

編集人 / 山口 真

編集スタッフ / 松浦英子

デザイン / おりがみはうす

翻訳 / 立石浩一

発売元 / おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価 600円

I ORIGAMI おりがみはうす商品案内

ホームページとEメールの
アドレスが変わりました。

website = <http://www.origamihouse.jp/> E-mail = info@origamihouse.jp

広告のコーナー

いよいよ予約開始! 西川誠司作品集

「西川トラ」、「ドラゴン」(本誌68号)、ピエロ(本誌61号)など代表作から秘蔵の初期作品まで32作品収録。



表紙デザインは変更になる場合があります

6月下旬発行決定!

申し込み方法は通常の通信販売と同様です。送料と本の代金をお送り頂き、発行次第、ご住所に発送となります。

B5判／全200ページ／カラー口絵4ページ／定価：3,200円(税込)／送料：460円(梱包込)

For foreign shipments of the Nishikawa book, see Origami House Web Site : <http://www.origamihouse.jp/>.

第8回折紙探偵団コンベンション 折り図集VOL.8

B5判／256ページ／国内・外の創作家の45作品を収録。定価：2,000円(税込)／送料：420円(梱包込)

第7回折紙探偵団コンベンション 折り図集VOL.7

B5判／256ページ／国内・外の創作家の51作品を収録。定価：2,000円(税込)／送料：420円(梱包込)

※第1回～第6回の折り図集は全て絶版です。

折り紙色紙百花 (しきしひゃか)

田中真子著

女性に大人気! 色紙折り紙のバイブル

B5判／全120ページ／カラー口絵8ページ／31作品収録定価：2,500円(税込)／送料：390円(梱包込)

面～The Mask～

布施知子著

作者がユニット折り紙に出会う前の、面ばかりを集めた作品集

B5判／全200ページ／全27作品カラー写真紹介

定価：3,300円(税込)／送料：460円(梱包込)

折紙図鑑「昆虫II」

川畠文昭・西川誠司 共著
山口 真撮

B5判／全200ページ／カラー口絵 4ページ／17作品収録

定価：3,100円(税込)／送料：460円(梱包込)

一生スーパーコンプレックスおりがみ

B5判／全200ページ／カラー口絵 8ページ 吉野一生著

トリケラトプス全身骨格を含む14作品収録

定価：2,900円(税込)／送料：460円(梱包込)

折るこころ

岡村昌夫 構成・執筆

A4判／全108ページ／フルカラー48ページ

定価：1400円(税込)／送料：420円(梱包込)

折り紙の貴重な歴史的資料満載の一冊



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail : info@origamihouse.jp

■書籍を複数ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

『折紙探偵団』専用ファイル

変形B5判／箔押しロゴ入／定価：750円(税込)／送料：250円(梱包込)／雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊)収録可能
※ファイルを複数ご注文の場合は送料が異なります。お問い合わせください。

おりがみDVD ママとおりがみ 山口 真 監修

簡単でかわいい作品の折り方を実写の動画でわかりやすく説明。折り図が読めなくてもこれなら折れる?! 1本各120分。

●りくのどうぶつ／8作品 ●みすべのどうぶつ／12作品 ●もりのとり・もし・はな／11作品
定価：2100円(税込)／送料：1本=320円, 2~3本=470円

四季の千代紙 30cm判 TOYOから発売中の「四季の千代紙」大判サイズ

発送方法が変わりました! 丸めずにお送りします。

※上質紙にカラー印刷したおりがみです。和紙ではありません。

四季をテーマにしたかわいい柄のおりがみです。モチーフが細かいのも魅力。一般のおりがみ用紙より若干厚手。

30cm×30cm／20枚入(4柄×5枚)／定価：450円(税込)
送料(変更注意)：1~2セット=440円, 3~4セット=630円

恐竜柄おりがみ

70kgコルキーの表面に細かい恐竜模様を印刷。

発送方法が変わりました! 丸めずにお送りします。

35cm×35cm／10枚入／定価：1,000円(税込)／

送料(変更注意)：1~2セット=440円, 3~4セット=630円

恐竜柄おりがみ折り図つきセット／3種類から選べます

1. ドラゴン

(北條高史作)



2. ティラノサウルス

(神谷哲史作)



3. カルノタウルス

(神谷哲史作)

カルノタウルス

ティラノサウルス

定価：各1,200円(税込) ※送料は恐竜柄おりがみ単品と同様です。

只今制作中 まだまだ制作中。気長に待っていて下さい。

折紙図鑑「昆虫 II」／ロバート・J. ラング著

折紙図鑑「昆虫 III」／前川淳 北條高史 目黒俊幸 共著

折紙図鑑「犬」／佐野康博・著 犬折り紙第一人者の作品集

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません。
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください。

商品の申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させて頂きます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です。(お盆・年末年始等を除く)

※書籍は冊子小包で発送している為、本とそれ以外の商品(ファイル・紙)を同時にご注文の場合、基本的に送料は別々に頂いております。ご了承ください。

広告有効期限:2003年7月31日

光をためて暗い所で光る 蓄光おりがみ

**トーヨー 暗い所で光る！
蓄光おりがみ**

蛍光灯や太陽の光りをためて
暗い所でやわらかく光ります。

蛍光灯や太陽の光りに
5分程当てる
約10~15分程
光ります。

暗い所で見た
イメージ

15.0×15.0cm 6枚入(2色調) 肉面全て蓄光加工をしています。

¥200

蛍光灯や太陽の光りに
5分程当てる
約10~15分程光ります。

株式会社トーヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
半表示価格には消費税は含まれておらずません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0022 東京都足立区柳原1-35-4 TEL03-3882-8161
大阪支店/名古屋営業所/福岡営業所/札幌出張所/松山出張所

日本折紙学会発行

定価
600円